

2010 STYLE of ITOKI

スタイル・オブ・イトーキ 2010



イトーキが伝えたいこと

すべてのステークホルダーと感動を分かち合うために

次代に引き継がれてきた
創業者の慧眼

企業も人もいきいきさせる
「新Ud&Eco style」

2010年12月1日、イトーキは創業120周年を迎えます。1890年(明治23年)に、大阪で伊藤喜商店として創業して以来、日本のオフィスの歴史とともに歩み、ともに発展してきました。創業中、伊藤喜十郎は「便利な発明を世の中に広げ、人々に喜ばれる仕事をした」という志を持って、他に先んじてホチキスや魔法瓶などを輸入・販売。ヒット商品となった「ゼニアイキ(金銭出納機)」も開発しました。加えて、喜十郎は支店を東京ではなく福岡に置き、アジアを重要なマーケットとして捉える先見性を持っていました。

イトーキでは創業者の壮大な志と時代を先取りする慧眼を次代に引き継ぎ、育んできました。そして、現在では新Ud&Eco styleを企業コンセプトとして掲げ、オフィスづくりにおけるさまざまな製品の開発・サービスのご提供を行っています。また、セキュリティ、物流、医療・福祉施設、研究施設などの各分野の空間づくり、環境づくりにも取り組んでいます。

イトーキは1999年にはユニバーサルデザインとエコデザインを融合した「Ud&Eco style(ユードエコスタイル)」を企業コンセプトに掲げ、いち早く、企業の社会的責任や環境に重きを置いた経営を実践してまいりました。そして昨年度より、「人も生き生き、地球も生き生き」を合い言葉に、従来のユードエコスタイルをさらに進歩させた「新Ud&Eco style」を発信しております。

新Udでは従来の安心、安全、機能性、効率性を目指すことに加え、楽しく創造的な環境を提供することで人のこころからの快適性を追求します。また、新Ecoでは3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進やFM(ファシリティマネジメント)を通じたランニングコストの削減からステップアップし、CO₂削減やバイオマス、省エネルギー・創エネルギーといった分野からも地球環境保全に取り組めます。2010年は、新ユードエコスタイルのコンセプトに基づき、製品とソリューションが一体となった「いき

いき空間」を創造していきます。これらの取組みにより、人も生き生き、地球も生き生きを目指すことが、「企業も生き生き」につながると思っています。

2010年3月30日、防衛省航空自衛隊が競争入札等の方法により発注するオフィス家具等の事務用品に関して、公正取引委員会から独占禁止法第3条(不当な取引制限の禁止)に違反するとして、排除措置命令および課徴金納付命令を受領しました。お客様や株主様をはじめ、すべてのステークホルダーの皆様にも多大なるご迷惑、ご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。今後、私たちはイトーキグループ全体として、さらなるコンプライアンス体制の強化に取り組む、再発を防止し、皆様からの信頼回復に努めてまいります。

買ってきた
顧客第一主義の精神

依然として本格的な景気回復が見通せ

ない経済状況にあり、さらに回復の先には従来とは異なる新しい価値観での生産・消費のカタチが求められています。また、環境の分野では、2009年9月、「ニューヨークの国連気候変動サミット」において、我が国の目標として、温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比で25%削減することが表明されました。地球環境保全に対する企業の社会的責任の重要性もますます高まっています。

イトーキの120年は、絶えず時代の変化を先取りし、「お客様のため」「社会のため」にさまざまな製品・サービスを提供してきた歴史だからです。イトーキは持続可能な社会の実現に向けて、すべての人が快適に利用できる製品・サービスと空間づくりを推進してまいります。そして、「人も生き生き、地球も生き生き」を実現し、すべてのステークホルダーと感動を分かち合っていきたいと考えております。

株式会社イトーキ
代表取締役社長 松井正



企業理念

社 是

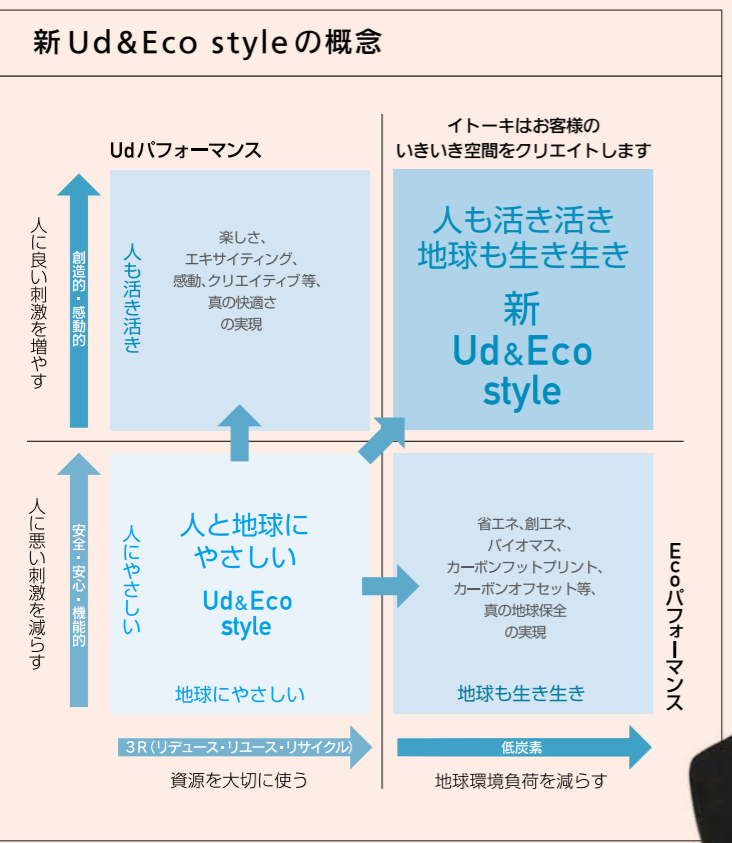
- 創業者の旺盛な開拓精神を持ち続けよう
- あらゆることに創意と工夫をこらそう
- 勤勉と努力を惜しまない
- 皆で力を合わせ苦難を切り拓いて繁栄を求めよう
- 正しい商道に徹して悔いなき人生を送ろう

存在意義

私たちは、時代に先駆けた生活シーンを探求し、
"人が主役の環境づくり"を通して、
世界の人々が感動する価値を提供し続けます。

経営姿勢

1. お客様ニーズの先取りとヒューマンテクノロジーの深耕によりイトーキブランドを展開します。
2. 社員の貢献意欲に応えるべく、働きがいを実感できる場を提供します。
3. 企業活動の全ての領域において地球環境への負荷を低減し、その保全に努めます。
4. よき企業市民としての社会的責任を果たし、地域社会との融和を促進します。
5. 健全かつ透明な経営を行い、企業活動に関わる人々の期待と信頼に応えます。



人も地球も いきいきする 空間づくり



CONTENTS

特集総論

人も地球もいきいきする空間づくり ————— 5

■特集01 エッセイ

福島敦子さんが見た新ユーデコスタイル
[文・福島敦子]

part1 人と自然と家具の共生を探る

エコファ ————— 7

ケミレス家具/ハスクボード ————— 8

part2 人と人、人と家具のいきいきワークスタイル

オフィスの新ユーデコスタイル ——— 10

工場の新ユーデコスタイル ————— 11

コラム 生産の現場でのいきいき活動

常務執行役員 生産本部長
伊原木秀松 ————— 11

■特集02 レポート

いきいきの実現に挑む

ものづくりへのこだわりを探る[文・五味幹男]

スピーナ/エピオス/トルテ/カシコ ——— 12

コムネットエディ/アシオンパート/
人体通信エントランスシステム/TH/
LANシート/デスクマット/トワイズ ——— 14

■特集03 ヒストリー

120周年とユーデコスタイル ————— 16

1999年に「ユニバーサルデザイン(U&D)とHIDデザイン(Eco)の考え方を融合させた「Ud&Eco style(ユーデコスタイル)」を企業コンセプトとして打ち出し、持続可能な共創社会の実現をめざしてきたイトーキは、2009年、活動の領域や視点を広げた「新Ud&Eco style」を掲げました。「人と地球にやさしい」から「人も活き活き、地球も活き活きへ」と、よりポジティブにアクティブに進化しました。これまでのUdは、多くの人が快適に利用できる製品と空間をめざし安全性や機能性、快適性を追求した製品を開発してきました。新ユーデコスタイルでは、これらの考え方をさらに広げ、心地よい空間の中で、楽しく、情熱をもって、創造的・感動的な時間が過ごせる「人の真の快適さ」を追求し「人も活き活き」する空間づくりです。

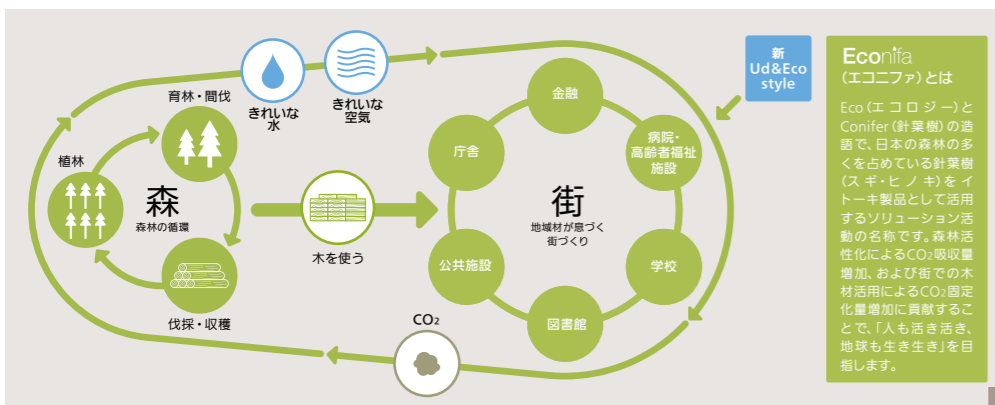
一方、地球環境の保全をテーマとするEco。これまでは循環型社会の実現を目標に、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進してきました。新ユーデコスタイルでは、これに加え、カーボンフットプリント制度への取組みによる使用エネルギーの「見える化」、バイオマス由来原料採用による資源有効利用と廃棄物の抑制、地域材活用による持続可能な森林保全と生物多様性への取組みなどにより、低炭素社会の実現を推進し、「地球も生き生き」をめざします。

こうして、「地球も生き生き」することは企業の「コストを削減し」「人も活き活き」することは人を活性化させ、企業の創造力を向上させることにつながっていくのだ。

——— 会話が活発にかわされる。いきいきとした笑顔が重なり合う。ハツツとした姿が行き交う。さまざまな人・情報との出会いが刺激を生み出す。新しい発見に心を躍らせる。希望に満ちた姿勢。——— そんな「いきいき」できる空間づくりをサポートしていきます。

「家電のリサイクル工場ですから、一般的にはメカニカルな印象を与えますが、木の温もりと香りがそんなイメージを和らげてくれますね。お客さまからも好評なんです」(藤井俊宏さん)

「家電のリサイクル工場ですから、一般的にはメカニカルな印象を与えますが、木の温もりと香りがそんなイメージを和らげてくれますね。お客さまからも好評なんです」(藤井俊宏さん)



1. 見学通路にもEconifaが採用された
 2. エコニファサイクル(日本の豊かな森林資源を都市に活用することによって森林整備につなげ、CO2削減に寄与する循環)
 3. 会議室は木の香りでいっぱい
 4. パナソニック エコテクノロジーセンター株式会社取締役社長 雷田和之さん(左)と、イトーキ販売推進部 末宗浩一
- *林野庁ホームページ「平成20年木材需給の動向」より

エコニファ
森林資源を、街へへへ

家電リサイクル施設で
評価された地域材

六甲の山塊を貫く長いトンネルを抜けると、新緑でいっぱい山々が視界に入り込む。ほんの少し前は神戸の海が見えていたのに、景色は早くもどかな山村地帯に変わった。向かう先は、パナソニック エコテクノロジーセンター株式会社。使用済み家電の中からさまざまな資源を取り出し、再利用する同社に、イトーキのユーザーデコスタイルの一例があるという。

通された会議室には、心地よい木の香りが部屋いっぱいに漂っていた。壁面が地域材(地場の間伐材)で仕上げられ、やさしく温かい印象を与えてくれる。

「年間約1万人が工場を見学されます。私どもが掲げる『商品から商品へ』を実践するリサイクル工程を学んでいただくのと同時に、地域材の活用についてもお伝えしています」(雷田和之さん)

地球環境への貢献と森林保全を促す『Econifa(エコニファ)』をイトーキがソリューションとして提案し、同社が改修時に採用したという。

「家電のリサイクル工場ですから、一般的にはメカニカルな印象を与えますが、木の温もりと香りがそんなイメージを和らげてくれますね。お客さまからも好評なんです」(藤井俊宏さん)

樹齢60歳を迎えたら間伐することで
森も街も、そして人も潤う

ところで間伐という行為は知っていても、その意味を理解している人は少ないのではないかと。兵庫の人工林はほぼ60歳になるといふ。樹齢が進むとCO2吸収量は減る。そのため山に手を入れ、森を活性化するのが間伐の役目だという。

「木は汚れたり、傷ついても、今度は破砕して家具のボードにも利用できる。そこでまた寿命が与えられ、最後は燃料として使う。循環していくのです」(末宗浩一)

現在、国をあげて法制化が進んでおり、公共施設等の木造化により、木材需要が高まる見込みである。一方、外国材が市場の約76%を占めている現状があり、国産材(地域材)は十分活用されていない。単に『間伐材を家具に使用しよう』というのではなく、行政とユーザーの間を取りもつ仕組みをつくり、地産地消の考えのもと地域材に価値をもたせ、需要そのものを増やしていくことが提案が『Econifa』のセールスポイントのようだ。

森林の保全、木材の持続的活用につながる取組みである。循環型モノづくりを実践するパナソニックのエコテクノロジーセンターとイトーキの『Econifa』の根底には同じ理念が流れているように感じた。

新Ud&Eco style

特集01
essay
part1

福島敦子さんが見た新ユーザーデコスタイル

人と自然と家具の共生を探る

福島さんが2010年3月に上梓された著書に『愛が企業を繁栄させる』(リックテレコム)があります。『企業は何のために存在するのか』を問い、多くの取材を重ねるうちに思いついた答えは、人への『愛』にほかならないと書かれています。ご本人自身、青臭い言葉と言いつつも、『愛』が経営の根幹になれば、一時的に業績を伸ばすことはあっても長くは続かないと論じています。環境・社会報告書のなかで『新ユーザーデコスタイル』を伝えていくうえで、このような考えをもつ福島さんに、ステークホルダーの立場から、また第三者の視点から、『新ユーザーデコスタイル』の現場を見ていただきました。

文・福島敦子
(キャスター・エッセイスト)

津田塾大学文学部英文科卒。中部日本放送を経て、1988年独立。NHK、TBSなどで報道番組を担当。テレビ東京の『ビジネス維新』や『ミームの冒険〜日本経済のDNAを探る〜』などのキャスター、週刊誌『サンデー毎日』における250人に及ぶ企業トップとの連載対談など、企業や経営者への取材を行っている。また、環境、地域再生、医療、農業、食などをテーマにした講演やフォーラムなどでも活躍中。

ケミレス家具 ハスクボード 空気を健康に保つ家具

化学物質(フェニカル)の少ない(レス)家具と空間をよこさん研究

兵庫を後にし、次に向かったのは、近江商人発祥の地、近江八幡。ここにイトーキ滋賀工場がある。びわ湖の東岸、環境規制の厳しい地区だという。

最初にお聞きしたのは、『ケミレス家具』と呼ばれる製品群。要約すると、シックハウス症候群など、人に害を及ぼすTVOC(総揮発性有機化合物)の空気中の濃度を抑えた家具ということになる。

1985年から有機溶剤を使わない塗料や、接着剤を使わない家具を業界に先駆けて発売。現在でも自ら建築基準法の基準値以下の厳しい基準を設け、オフィス家具づくりに挑んでいる。有害化学物質対応への積み重ねがあったからこそ、TVOCを抑えるという取組みにも、いち早く繋がったという。

「早くから取り組んでいたことで、産学連携プロジェクトの『ケミレスタウン・プロジェクト』にも積極的に参加できました。長年の測定結果により、家具だけでなく床・壁・天井を含む空間全体で手を打たないと効果的でないことが、実証されました。」



中央研究所 福原敦志
長年の研究成果がようやく皆さまにご提供できる段階にきました

インというテーマが、あらゆる根底に流れている。そのなかでも意表をつかれたのは『空気の質のユニバーサルデザイン』。「誰にでも心地よい空気を指している」という、志の高さに感銘した。

農業廃棄物の粉殻から家具がつくれるのか？

ケミレス家具の次のステップとして、より有害物質が出にくい素材があれば、なお良しということになる。これまでもアメリカのメーカーがバイオマス原料として『麦わら』をボード化したものを、輸入・製品化はしていたものの、国内バイオマス原料で製品化できないかを模索していた。

「そこで着目したのが、農業廃棄物の粉殻でした。滋賀県農協中央会に、粉殻の家具への再利用を提案したところ、少しでも有効に使えるのなら、ぜひ協力したいという返事をもらえたんです」(福原敦志)

資源の有効利用ができる上に、人に優しい家具づくりにもつながる、ハスクボードの研究・開発がスタートした。

まるで近江商人

「三方よし」SUNNENモデル

「従来から木質チップでボードができるのは実証されていましたが、粉殻は固められるのか？強度は？耐久性は？など各種性能を検証するのに時間がかかりました」(中林和昭)

東京大学、森林総合研究所との研究では、米を雨や風から守る籾の撥水機能が接着



中央研究所 加藤洋介
イトーキではより厳しい基準でシックハウス対策に処処しています

た(福原敦志)。

実際にタウンの講義室を使い、臨床的な試験を行いながら、測定を続け、5年目の今年、ついに空間パッケージでの製品提供ができる段階に至った。

「床・壁・天井などの内装材メーカーと働き、今年中に教育施設、寮施設、オフィスの3パッケージを空間単位で提供していくことから始めたいと思っています」(加藤洋介)

人の健康を願って、 空気質のユニバーサルデザイン

一般的に使われているF☆☆☆☆(フォスター)は、低い温度での基準レベル。夏場の暑い室内では放散量が高くなり、問題解決には到らないという事実を研究所の方々は力説する。『研究』で得られた結果は、厚生労働省の目安である400ppmでは発症の可能性があり、250ppm以下ならばシックハウス症候群を引き起こしにくいことが実証されている。

これらの研究結果を昨年の『第3回WHO子供の健康と環境に関する国際会議「韓国釜山」』に加藤さんが赴き、報告したそとだ。

イトーキでは、新ユーデコスタイルの考えのもと、ユニバーサルデザイン、エコデザ

剤をはじめく等難関の連続だったが、ついに完成。その年の環境イベントにも出品した。

「びわ湖環境ビジネスメッセやエコプロダクツ展でも高く評価されました。粉殻でつくったことが多くの方々にも驚かれ、VOCが少ないのではお良いと評価されました」(中林和昭)。

ハスクボードの工場は、私が抱いていたイトーキのモダンなイメージを覆し、どこか伝統的な町工場を思わせた。工場の規模は小さいし、手作業がずいぶん多い。現在は、品質確保を第一に現場の人たちは息を合わせて丁寧に丁寧に作業をされていた。プレス機が作動する中、室内に流れるBGMは「明日があるさ」。今後の需要拡大に向け、夢を膨らませる思いが伝わってきた。滋賀工場、ここは近江商人発祥の地であり、『三方よし』が謳われはじめた地だ。ケミレス家具、ハスクボードはまさに「売り手よし、買い手よし、世間よしの『三方よし』の成功事例ではないだろうか。お客さまにとっては『健康』、イトーキにとっては環境への『貢献』、地域にとっては資源を『有効利用』できる。

価格は少々高めとのことだが、環境によいものならば多少割高のコストでも、と購入する人が増えてきている。粉殻が不足する事態にならないかの心配はあるが、今後の需要はひろがるように思う。

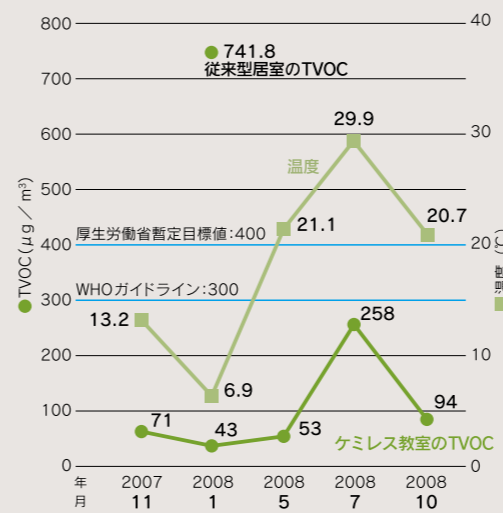


中央研究所 中林和昭
さまざまな方々のご協力があって、開発できました



- 1.ケミレス家具のボードを手にとる福島さん
- 2.ケミレスタウンは、千葉大学柏の葉キャンパスの環境健康フィールド科学センター敷地内にある
- 3-4.ケミレスタウンのテーマ棟の講義室に測定用に納入されたケミレス家具
- 5.粉殻は家畜の敷き材、鋳鉄製造用の副資材として使われるが、多くは廃棄されていた
- 6.ハスクボード工場。手仕事の多い作業が続く
- 7-8.固める前の粉殻や検品前のボードを実際に見学

ケミレス教室TVOC濃度推移グラフ



ケミレスタウンで行われた約1年半にわたる実証実験の結果から、ケミレスタウン・プロジェクトとしてTVOC(総揮発性有機化合物)の室内濃度250ug/m³をシックハウス症候群を引き起こしにくい値の目安に設定(厚生労働省の暫定指針値は400ug/m³)。実証実験が行われているケミレス教室は、気温の上がる夏も含め、年間を通してTVOCの発生が極めて低い





滋賀工場 工場長 阪本修造
一人ひとりの改善努力が工場内外に波及しはじめています

社員は、それぞれの持ち場の中で、個々にいろいろな工夫をしている。その経過・結果を皆が共有できるようにしたのが『コミュニケーションボード』だ。「作業に従事している社員個々が、安全、環境、品質、生産、原価、人材育成の項目について、どう捉え、改善しているのかを、みんなで把握していくツールとして使っています。始業前の10分、終業後20分をこの管理作業に使っています(倉上敦郎)いわば『見える化』だが、日常の維持管理と改善活動だけでなく、コミュニケーションもより深められているようだ。「ある金型の温度維持の工程では、以前ならば季節にかかわらずタイマーを設定して稼働させていましたが、現在は季節ごとの気温データをとり、より短い時間で行えるようになりました(今村敦宏)といった改善例を、自工場・他工場へと水平展開できるだけでなく、積極的な姿勢も同時に伝わるので、社員一人ひとりの『やる気』『働きがい』を生み出すのがボードの役割となっている。通路にはイトーキが掲げる方針が外国語とともに掲示しており、「環境方針、品質方針、個人情報保護方針、安全衛生方針は、



滋賀工場(チェア工場)に

意識改革やルール策定が大切『エコワークプレイス』実際に社員の方々が働く東京ショールーム7階のオフィスを見学させてもらった。窓際のフリーアドレス・コーナーでは、照明は使わず、昼光利用で仕事をしている。イトーキでは、昼光利用だけでなく、照

Udの視点、Ecoの視点 オフィスの 新ユーデコスタイル

人と人、人と家具のいきいきワークスタイル

新ユーデコスタイルの概念は、UdとEcoの2つの軸があります。その2つが1つのベクトルとなり、製品とソリューションにより、『いきいき空間をクリエイト』することを目標としています。東京ショールームとワーキングショールーム(オフィス)、そして工場の見学を通し、イトーキのさまざまな『いきいき』を福島さんに見ていただきました。



明の間引き、不在時の消灯、残業時の集中着席等、省エネを実践しながら、様々な検証をしています(河崎幸子)自身のオフィスで実践したことをデータ化し、それを基に『エコワークプレイス』のソリューション提案をしている。

「エコ」をとり入れると、暗くなる、暑くなる、寒くなる…と受け止められがちですが、エコと快適性はトレードオフにしないことを前提に提案をしています(平野啓一郎)改正省エネ法に対応しなければならぬものの、具体的にどうしたらいいのかわからないという経営者の声を多く耳にする。厳しい経営環境の中、大半の企業は、削減の必要性は理解していても莫大な設備投資はむずかしいだろう。だからこそ、



ソリューション企画推進部 平野啓一郎
「省エネ・CO₂削減」3R促進対策「VOC対策」の3つの側面からご提案しています
ソリューション企画推進部 河崎幸子
国が掲げているCO₂25%削減のためには、いろんな部分で削減する努力が必要ですよ

ブラジルの方にもわかるよう、ポルトガル語と日本語で併記していますとのこと。「カイゼン」という文字はメディアでもよく取り上げられるが、今回初めて実際に生の改善現場を見た。自分自身の力で気づく・学ぶことで得られる納得から始まり、工夫や努力を繰り返し、コミュニケーション力で組織全体に広げていくことが、真の改善につながるのかもしれない。

創業120周年のイトーキの歴史は、人々の暮らしに役立つ、生活を豊かにしてくれる、世界の優れた製品を見出し、日本に輸入するビジネスからスタートした。そこには人々の幸福に貢献したいとの熱い思いがあったに違いない。新ユーデコスタイルも理念は同じだろう。環境への配慮は当然の責務としながらも、働く人たちが能力を最大限発揮して、いきいきと輝ける存在になれる空間づくりを目指す。そこには人への温かな眼差し、愛情が感じられる。企業価値を生むのは、結局は、人である。これまでの取材体験から、人を大切に経営が、結果的に企業に成功をもたらすの思いを強くしていただけに、イトーキの新ユーデコスタイルの提唱には賛同できるし、そうしたオフィス空間が広がることは、日本企業の競争力を高める上で大きなプラスになることを、今回の取材で確信した。



少ずつ試していきたいというニーズに、エコワークプレイスの提案があるようだ。日本のオフィスの照明環境は欧米のオフィスと比べ明るすぎるとの指摘もあるが、実際、快適性を損なわない範囲で照明数を減らしたり、少ずつLEDに切り替えたり、また自然光や外気などをできるだけ取り入れたりするだけで、かなりのCO₂削減効果があるという。日本人はもとも自然と調和した生活空間を工夫する才に長けていた。そうした感性も活かしつつ、ハード、ソフトが一体となったソリューションを提案してほしい。

『これからの時代、クリエイティビティを發揮できる人が世の中を引っ張っていく』と説いた本を読んだことがある。それだけにクリエイティビティを高められるオフィス空間とはどういうものか興味があった。「オフィスには性別、年齢、国籍のほか、価値観、働き方、筆記方法まで：異なるキャラクターが同居しています。そうした多様なキャラクターをUdの概念でとらえ、組織の創造力をいかに發揮していくかを右井裕さん(マサチューセッツ工科大学教授)と共に研究しています(大橋一広)当初、Udとクリエイティブと聞いたた

けでは、その2つのキーワードが結びつきにくかった。「人にやさしい」を發展させ、『楽しさ』『感動』などをUdの概念に付加し、クリエイティビティを發揮しやすい空間を提供するというのが、Udクリエイティブの考え方だ。今や業界界種を問わず、ダイバーシティは企業成長のための源泉である。個性がぶつかり合い、化学反応を起こし、クリエイティビティが發揮される。そうした仕組み、仕掛けをオフィスに取り入れようとしている。研究結果をもとに製品への展開も視野に入れていくようであり、どのようなカタチで世に問うのが楽しみだ。グローバル社会が激化しているが、新しい価値をもった製品やサービスをどう生み出すかは、まさにクリエイティビティが勝負である。イトーキの提唱する一歩先をゆくUdクリエイティブには大いに共感できる。

コミュニケーション促進、 工場の 新ユーデコスタイル

個々の「改善」を「見える化」

『コミュニケーションボード』



ソリューション企画推進部 大橋一広
クリエイティビティを發揮しやすい空間づくりを支援していきます

オフィス家具の象徴といえば、デスクとチェアではないだろうか。今回のチェアの製造現場を見せていただいた。イトーキの工場には無人に近いオートメーション化された工場もあるようだ。このチェア工場は所々に、人の手業やノウハウが求められる現場のようだ。

◎製造現場でのいきいき活動 モノづくりは人づくり コミュニケーションからはじめる人材育成

常務執行役員 生産本部長
伊原木 秀松



現在、工場の改善活動は、現場のコミュニケーションを軸に進めています。根底にあるのは、トヨタ自動車時代に培ってきた、企業のベースは絶対的に「人」とあるという考えです。人材が育たなければ、自信のもてるモノづくりは絶対にできない。そして、工場の人材育成には現場のコミュニケーションが不可欠だと確信しているからです。これまで現場のスタッフは、何かが変だと思いつつも声を出さず、上からの押し付けに従っていました。現場を最もよく知るはずのスタッフが、与えられた項目をこなすだけでは不具合の改善にはつながりません。事実を事実として正しく認識し、判断し、発言できるスタッフを育成することが重要なのです。具体的には朝礼と終礼の徹底や、コミュニケーションの「見える

化」を進めています。どんな些細なことでもいい。一人ひとりが発言し、その気づきが改善されたかたちで現れれば、人は自信をもっていきいきと働き出します。事実を事実として明快に伝える思考力が身につきます。この思考力はコミュニケーションから培われる。モノづくりはまさに人づくり。企業風土ではなく人づくりなのです。これは、イトーキの掲げる「新ユーデコスタイル」にも共通しています。UdとEcoを生産サイドに置き換えると、「自分達の考え得る省エネで高効率な方法で作ったのがこの製品です」と、自分の製品にどれだけ自信をもって言えるかではないでしょうか。胸を張ってそう言える人材を育てる。それが私の役目であり、工場の改善活動だと考えています。



「便利な無線LANの普及率がいまだに20%ほどしかないのはひとつにはセキュリティ面での不安があると思うのです。だからこそ逆にビジネスチャンスがあると思えました」と語るのは秋山恵さん。

秋山さんたちは、電波が届く範囲が広いほど利便性が高いはずの無線LANをあえて電波が届く範囲を狭めることでセキュリティを強化した。だが、ユビキタス・ネットワークの大量の下、わざわざ電波範囲を狭めたシステムを製品化に踏み切ったのは英断と言える。

「電波が届くのがごく限られた範囲であれば安心して使えます。また、アクセスするためにはいちいちセキュリティ設定や接



オフィス商品企画部
秋山恵
新しい市場や方向性を生み出すような製品をこれからも開発していきたい

無線LANは、高い利便性を与えてくれる一方でセキュリティの面から見ると不安がある。悪意をもった第三者が、どこからか気づかれることなくネットワークに侵入してやることも考えられる。

あえて不便にする「LANシート」
セキュリティを高める「LANシート」

「個人とグループの距離を近づけたいという発想から生まれました」

オフィスデザインを長く手掛けていた世良卓三さんは、以前から個人のワークスペースとミーティングなどを行う共有スペースの家具デザインに統一性がないことが気になっていた。

「そのつづを同じ空間に、しかも心理的に近い距離に置きたいと思いました。たとえば会議も1時間の会議より5分、10分の打ち合わせは案外多いものです。そして、そうした立ち話的なやり取りほど実は重要だったりもする。個とグループのワークスペースの境界をあいまいにすれば「コミュニケーションが促進され、よりクリエイティブな空間がつけられるのではないか」と考えました」

採用したのは自然と和が生まれるような優しさがあるデザイン。角を丸め、表面に白



オフィス商品企画部
世良卓三
あえてオフィスっぽくない、家のようにリラックスできる空間ニーズに応えていきたい



コミュニケーションが促進されるクリエイティブデスク「コムネットエーディ」

色と木目を採用した。アルミやガラスは高級感があるがどこか冷たい緊張感が漂う。「これまでは天板カラーも単色で形状も同一でまとめたオフィスが多かったのですが、異なるカラーや形状を組み合わせることによって、コミュニケーションが弾みやすい空間をつくれるようになります」

手軽に統一空間をデザインできる「アシオンパート」

チェアやデスクに比べれば意識されることは少ないが、面積の広さを考えれば間仕切り材がオフィス空間全体に与える影響は大きい。

アシオンパートは、これまで造作工事でしか実現できなかった格調の高さを規格品で表現できるようにしたものだ。造作工事は多くの時間や手間が掛かり、完成後は移設ができない。アシオンパートには専門家がいらなくても簡単に多様な素材を組み合わせたことができる「編集設計」という概念が用いられている。

開発に携わった長浜宏幸さんは語る。



建材商品開発統括部
長浜宏幸
イトーキのオフィス家具を引き立て、同時に引き立てられる建材を開発したい

統設定をする必要もありません。PCを置くだけですぐにアクセスできる。イトーキが会社としてICTを扱える手がかりになる製品でもあると思います」

格子柄のデザインはグッド。先進性も高い。ただ、ネーミングはちょっと残念。わかりやすさを目指した気持ちはわからなくもないが、もう少し近未来的な、ワクワクするようなものがもっと大きなインパクトが与えられるように思う。

塩ビを使用しないのは有害だからではなく、無害が証明されないから「学習机用デスクマット」



ホーム家具統括部
小川智
地球にも子どもにやさしくできる仕事だから、多少苦しくてもがんばれる

イトーキは学習机やベッドなど家庭用製品も手掛けている。学習机用のデスクマットについて小川智さんに尋ねた。

「他社に先駆けて素材を塩ビからオレフィンに変更しました。塩ビは燃やし方によってはダイオキシンが発生してしまいますし、素材を安定させるための可塑剤も人体に影響がないと実証できていません。子どもが日常的に使っているのであればなおさら、100%安全性が確保されていないものは使用できません」

本質はティールに宿る。主力商品ではないマットだからこそ、そこには企業の思いや姿勢が如実に表れる。小川さんの話を聞きながらそう思った。



「手軽で利便性が高いという『編集設計』と言った考えを活かしたアシオンパートは質感にもこだわりました。また、造作と違って移設ができるため、廃棄物が削減できる環境にやさしい建材でもあります」

質感は高い。「見ただけでは規格品の組み合わせのように見えない。聞けば、たとえばガラスの表面材であれば精密機械のガラス加工を手掛ける素材メーカーに依頼しているとのこと。納得。」

「ユニバーサルデザインとエコは今日の企業活動では欠かせないものとなっています。だからこそ、+αをどう出していくかが大事。間仕切り材としてのアシオンパートは目立ってはいけませんが、その中でもユニバーサルデザインを実現すると同時に『おもてなし』の心を表現しています」と長浜さんは胸を張った。

ユーザーリティとセキュリティを両立させる「エントランスシステム」
「人体通信エントランスシステム」/TH

一般的にセキュリティにおいて堅牢性

大人になるまで20年間
フィットし続ける「イス」/TWICE

「小学生になる時、学習机を買うとは言うのに学習イスを買うとは言わない。成長過程の子どもが大事な体を預けるのだからもっと配慮があってもいいと思います」

そう語るのは岡本和士さん。TWICE（トワイズ）は高さだけでなく奥行も子どもの成長に合わせて調節することができる。他にも安定性を高めるためのダブルアーム構造や、足置きの高さを変えられる仕組みなど徹底した子ども目線での開発が行われている。

「ユーデコスタイルにより近づくためにブラッシュアップは今でも常に考えていますが、それは製品のみではありません。梱包もより効率的な方法を考えれば使用するエネルギーも少なくて済みます」

地球と子どもに優しいイスは、明るい未来をつくるための舞台装置だ。



ホーム家具統括部
岡本和士
一生使える、世代を超えて受け継がれるような「学習用イス」をつくりたい

と利便性は相反する要素。だが、イトーキはこの2つを両立させてみせた。それが人体通信エントランスシステム/TH。話をうかがったのは井和丸さん。

「オフィスセキュリティに着手した05年は市場もあつてないようなものでしたが、オフィス家具メーカーが手掛けるセキュリティとして、ユーザーリティとセキュリティの共存は外せませんでした」

このシステムでは、タッチタグを首の後ろに装着して体全体を認証キーとしているため、両手に抱えていた荷物を一度おろしてカードをかざすといった動作が不要となる。アイデアは画期的。だが、導入実績が想定件数に届いていないのはやはりタッチタグの装着場所ではないか。首周りは敏感なところである。汗もかくし、女性にとっては見た目も重要だ。だが、井和丸さんの意気は衰えていない。

「セキュリティは今後ますます欠かせなくなってくる要素です。改良も発展もまだまだこれから。さすがイトーキと言ってもらえるようなものをつくっていききたいです」



設備機器開発企画部
井和丸宏
お客さまに「すごく使いやすいよ」と言ってもらえるものをこれからもつくっていききたい

い」と話す人もいた。だが、話の内容は違っても共通していたことがあった。彼らは「自分の言葉」で話していた。彼らが語る姿を見ながら、わかりづらいということは悪いことではないと思った。わかりづらいから考える。考えるから自分の言葉で話せる。そうした人々の集合体がイトーキの本質なのだろう。自分の言葉で語るには実体験が伴わなければならない。ユーデコスタイルという大きな概念を自分の言葉で表現できることは、各自の解釈や理解を実行に移せる風土がイトーキにはあるのだと感じた。

今回の取材で一番きいてみたかったのは「あなたにとってのユーデコスタイルとは何か」ということだった。ユニバーサルデザインとエコ。それが感動と創造の舞台装置であるオフィス家具にどう表現されるのかピンとこなかったのである。案の定と言うべきか、返ってきた反応は興味深いものだった。全員が全員、まず言葉を詰まらせていたからだ。しばらく間を置いてからの答えは人それぞれだった。ユニバーサルデザインとエコを分離して話す人、一緒に話して話す人、製品に則して話す人、もっと大きな枠組みで話す人、なかには「正直よくわからない

取材を終えて



環境マネジメント

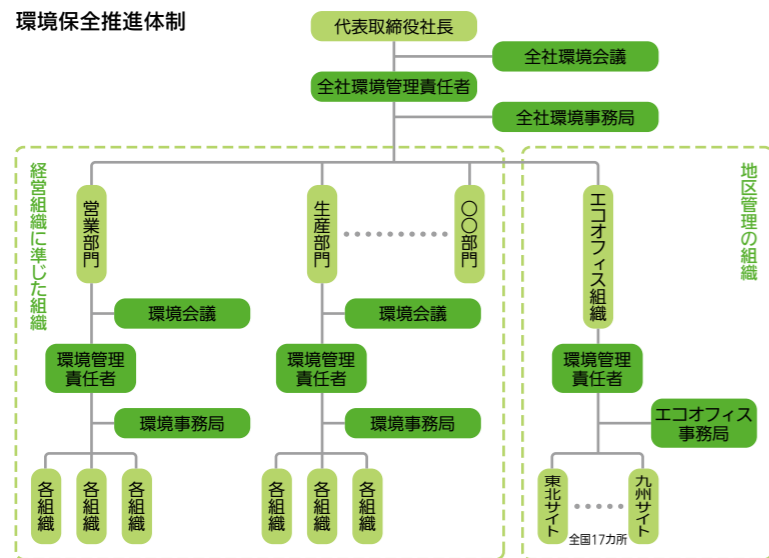
全社統合認証の取得

2005年6月の企業統合にともない、同年11月には全社でISO14001統合認証を取得しました。製造から販売まで一貫して環境負荷の低減を図るべく、環境マネジメントシステム(EMS)の継続的な改善に努めています。

環境保全推進体制

経営組織に準じた組織と、地域管理(ビル全体あるいは支社・支店単位等)で管理するエコオフィス組織で構成しています。

環境保全推進体制



環境マネジメント監査

環境マネジメントシステム(EMS)が適切に運用、維持されていくために内部環境監査を実施しています。各本部の環境活動がイトーキのEMSの要求事項に沿って行われているか、目的・目標の進捗状況はどうか、について業務に精通した各本部の監査員が監査する「本部環境監査」と、イトーキのEMSがISO14001の規格の要求事項を満たしているかどうか、について他部門の監査員の目で監査する「全社環境監査」を行っており、そのための内部監査員の養成にも力を入れています。2009年12月時点で、230名の内部監査員がいます。そのほか、CEAR(環境マネジメントシステム審査委評価登録センター)登録の環境マネジメントシステム審査員補3名を擁しています。

外部審査会社による審査結果

内部環境監査による社内での厳しいチェックにより改善に努めた結果、2009年度の外部審査会社による審査では、軽微な不適合1件、改善事項26件、グッドポイント15件という結果になりました。これらの指摘事項については是正を行い、システムの改善につなげています。

詳細は下記をご覧ください。
<http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/management.html>

●ISO14001登録証



- 登録会社名 株式会社イトーキ
- 登録番号 E 094
- 認証規格 JIS Q14001:2004 ISO 14001:2004
- 登録範囲 オフィス関連商品、オフィス建材関連商品、設備機器商品、公共施設商品、ホーム家具関連商品と商業施設商品の販売、開発・設計、製造、保管、施工、物流及び保守サービスに係る事業活動
- 登録範囲の関連組織 株式会社イトーキマーケットスペース本社、東日本支社及び西日本支社、株式会社エコ・プランディング
- 登録日 1999年11月11日
- 再発行日 2010年1月28日
- 有効期限 2011年11月10日
- 審査登録機関名 日本検査キューエイ株式会社

●環境マネジメントシステムイメージ



●社内環境教育の実施

環境活動への参画意識の高いエコマインドあふれる社員を育成していくために、さまざまな環境教育を行っています。新入社員を対象にした環境基礎教育、全社員を対象にした環境一般教育、社内関連部門に対する環境専門教育、緊急対応訓練、内部環境監査の効果的な実施を目的とする内部環境監査員教育などがあります。各種研修ではアンケートを実施し、研修内容の改善に役立っています。

2009年度の環境自覚の教育受講者数 **2,189名**

グループ企業の環境活動

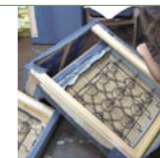
詳細は下記をご覧ください。
<http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/group.html>

株式会社イトーキ大阪工務センター

リペアサービスの取組み

長年使用した家具を修理・張替え・部品交換等により再生するリペアサービスを行い、廃棄物を最小限に減らすことで地球環境に負荷をかけない努力をしています。

所在地 ●大阪府大阪市中央区平野町2-4-12 平二ビル
 主要取扱い品目 ●オフィス家具の修理サービス、事務所移転、レイアウト作業、新規什器納入管理



伊藤喜オールスチール株式会社

圧縮梱包によるリサイクル

PPバンド、ポリ袋、エアキャップを分別し、圧縮梱包機で圧縮・梱包してリサイクルしています。圧縮するので積載効率が向上し、運搬時のCO2発生量も削減しています。

所在地 ●千葉県野田市尾崎2288 中里工業団地内
 主要取扱い品目 ●ロッカー、書庫、カウンター、壁面収納家具、テーブル



株式会社イトーキ東光製作所

分別ゴミは全員で廃棄

事務所および工場内に設置されているエコステーションに分別されたゴミは、意識付けのために週1回、全社員交代で種類ごとに廃棄量を測定、記録した後に廃棄しています。

所在地 ●茨城県東市戸423-1
 主要取扱い品目 ●金庫扉、貸金庫、遮音扉、特殊扉、移動壁、フリーアクセスフロア

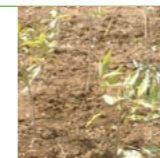


株式会社シマソービ

地域緑化活動への取組み

ゴミの分別、不在時の消灯、オフィスの省エネなど、従来からの『チームマイナス6%』活動はもちろん、『横浜市150万本植樹行動』にも参加。市内の緑化・植樹活動に参加することで、地域社会の活動にも貢献しています。

所在地 ●神奈川県横浜市中区羽衣町3-55-1 横浜センチュリービル
 主要取扱い品目 ●オフィス家具、学校・医療福祉家具、OA機器、内装インテリア工事他



富士リビング工業株式会社

リサイクル率の向上と省エネ推進

木くずおよび廃プラスチック(塩化除く)について処理設備(委託)を通じてサーマルリサイクルとしての再資源化を実施しています。また、照明機器を省エネタイプに切り替えるなど、さまざまな環境活動を展開しています。

所在地 ●石川県白山市橋爪町346
 主要取扱い品目 ●パイプチェア、ミーティング用チェア、テーブル、デスクパネル



伊藤喜(蘇州)家具有限公司

環境保護生産会社として認定

廃棄物の分別とリサイクル化、各工程における効率化など、部門ごとに実施・確認を行いました。その活動が認められ、中国の環境保護生産会社として認定されました。

所在地 ●No.222 Hufuhuang Road Suzhang Village Liuhe Town, Taicang City, Jiangsu Province, China
 主要取扱い品目 ●オフィス家具、商業施設用家具設備



株式会社イトーキ工務センター

産業廃棄物の収集運搬業許可を取得しリサイクルを促進

産業廃棄物の収集運搬業許可を取得し、作業で発生した廃材や余剰什器等は、適正な処理場へ持ち込むことで再資源化を行っています。また、ダンボールやコピー紙、ペットボトルのキャップなどを回収し、リサイクルに努めています。

所在地 ●東京都中央区日本橋富沢町9-8 富沢町グリーンビル
 主要取扱い品目 ●オフィス家具の修理サービス、事務所移転、レイアウト作業、新規什器納入管理



株式会社イトーキテクニカルサービス

環境への意識向上のためポスターを作成

毎月、環境に対する重点スローガンを掲げたポスターを作成し、社員にアナウンスしています。さらに朝礼等でスローガンを再確認するとともに、全員が環境に対する意識のレベルアップを図っています。

所在地 ●東京都中央区銀座2-16-7 電通興産第3ビル
 主要取扱い品目 ●各種設備機器および設備システムの保守管理業務



株式会社イトーキマーケットスペース

出荷業務の見直しでCO2を削減

京都物流センターでは、出荷業務の配車手配の分散化や時間配分を行うことで、2009年2月からフォークリフトを1台削減しました。これによって、経費削減に寄与するとともに、CO2の15%削減を実現しました。

所在地 ●東京都中央区築地7-17-1 住友不動産築地ビル
 主要取扱い品目 ●店舗用什器の販売、ストアプランニング



株式会社タイムック

資源の分別

ダンボール・梱包材および紙等について、再利用と分別によるリサイクルにより廃棄物の削減に努めています。また、定期的に工場周辺の清掃活動と消防訓練を実施しています。

所在地 ●茨城県常陸太田市岡田町2108-1
 主要取扱い品目 ●回転保管庫および周辺機器、什器およびその他カスタマイズ製品



イトーキマルイ工業株式会社

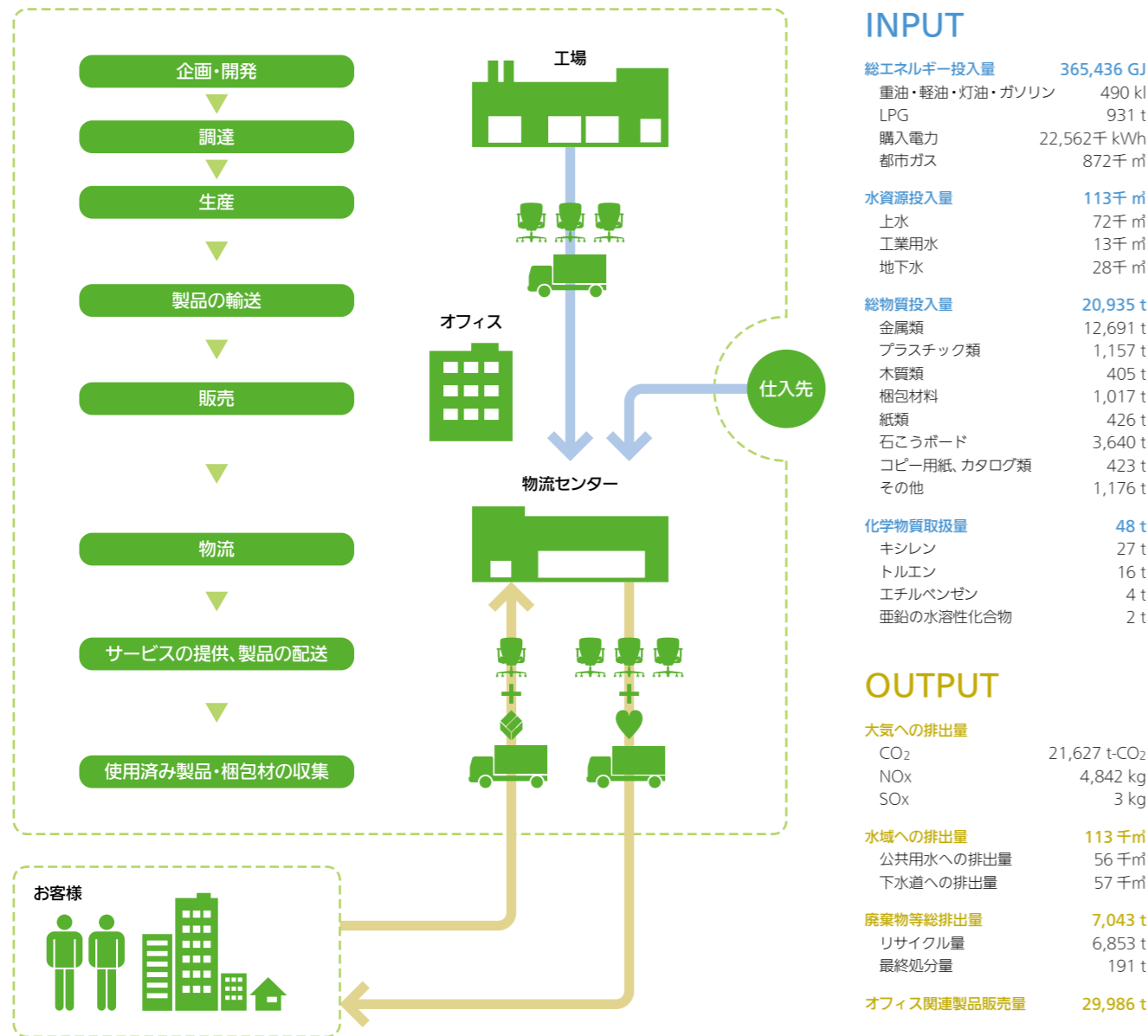
ゴミの削減は分別から

OA用紙はシュレッダーに掛け、段ボールと分別して引取業者から古紙再生工場へ、ビニールゴミと可燃ゴミ、産業廃棄物等は、分別を徹底し資源の有効活用に役立っています。

所在地 ●新潟県長岡市中之島町901
 主要取扱い品目 ●シューズロッカー、パソコンラック、ワゴン、収納家具、学校・医療施設家具



イトーキの事業活動の範囲



INPUT

総エネルギー投入量	365,436 GJ
重油・軽油・灯油・ガソリン	490 kl
LPG	931 t
購入電力	22,562千 kWh
都市ガス	872千 m ³
水資源投入量	113千 m³
上水	72千 m ³
工業用水	13千 m ³
地下水	28千 m ³
総物質投入量	20,935 t
金属類	12,691 t
プラスチック類	1,157 t
木質類	405 t
梱包材料	1,017 t
紙類	426 t
石膏ボード	3,640 t
コピー用紙、カタログ類	423 t
その他	1,176 t
化学物質取扱量	48 t
キシレン	27 t
トルエン	16 t
エチルベンゼン	4 t
亜鉛の水溶性化合物	2 t

OUTPUT

大気への排出量	
CO ₂	21,627 t-CO ₂
NO _x	4,842 kg
SO _x	3 kg
水域への排出量	113千 m³
公共用水への排出量	56千 m ³
下水道への排出量	57千 m ³
廃棄物等総排出量	7,043 t
リサイクル量	6,853 t
最終処分量	191 t
オフィス関連製品販売量	29,986 t

●Input, Outputの集計範囲(2009年度)

株式会社イトーキ: 関西工場(デスク・パネル、金庫、スチール棚、研究施設) 滋賀工場(キャビネット、チェア、電子機器) 千葉工場 物流センター エコオフィスサイト

●CO₂算出方法について

CO₂排出係数については、環境省「温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」(2006年4月公表)を参考にしました。製品の輸・配送に関するCO₂排出量は、改正省エネ法(特定荷主)に準じた算出方法を採用しています。

●測定対象について

総エネルギー投入量: 重油、軽油、灯油、ガソリン、LPG、購入電力、都市ガスの使用量
水資源投入量: 上水、工業用水、地下水の使用量
総物質投入量: 原材料、資材として投入する資源の量、コピー用紙、カタログ類の量
化学物質取扱量: 年間1t以上取り扱うPRTR報告対象の化学物質の量
CO₂排出量: 燃料、電力などエネルギー起源の二酸化炭素の排出量

NO_x, SO_x: ボイラーなどの設備から排出される量。大気汚染防止法施行規則に規定する算出方法の推定値を算出
廃棄物等総排出量: 有価物、一般廃棄物、産業廃棄物の量
リサイクル量: マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルの量
最終処分量: 単純焼却、埋立処分量

2009年度環境会計報告

より効率の高い環境保全活動を進めていくための指標として、環境活動にかかる投資額、費用額とその効果を集計しています。

2009年度は、滋賀工場・チェアの塗装ラインにおいて粉体塗装設備への更新を行いました。滋賀工場のチェアとキャビネット塗装ラインは、すべて粉体塗装への更新が完了し、工場全体の化学物質の取扱量は前年比-61%と大幅な削減につながりました。また、大阪の複数拠点にて保管されていたポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物の委託処理が完了し、これらの運搬処理費用を公害防止コストに計上しました。

研究開発活動では、粉殻を利用した新素材「ハスクボード」の生産関連設備を整えるなど、製品化に向けて準備を進めています。さらに、2009年度は新たに4シリーズのエコマーク認証を取得し、エコマーク登録商品数は16シリーズとなりました。また、水質汚濁防止や大気汚染防止など各種法・条例順守のための測定や、廃棄物の適正処理、環境マネジメントシステムの維持・改善などの活動を継続して行っています。

2009年度 環境会計

分類	主な取組み	環境保全コスト(単位:千円)	
		投資額	費用額
事業エリア内コスト		187,978	220,584
公害防止コスト	排ガス測定、排水処理、浄化槽管理、粉体塗装などVOCの低減等のための設備保全、PCB処理運搬のための費用	127,468	115,573
地球環境保全コスト	自然エネルギーの活用、工場におけるエネルギー効率改善、コージェネシシステムの維持	3,555	20,584
資源循環コスト	一般廃棄物と産業廃棄物の減量化、リサイクル、生産効率の向上	56,955	84,427
上・下流コスト		0	0
管理活動コスト	環境ISOの維持管理活動、環境ラベルの取得、展示会出展などによる情報開示、環境パフォーマンス等の監視、事業所内の緑化	2,500	233,218
研究開発活動コスト	環境負荷の低減に貢献する製品の設計・開発、新素材の研究・開発	40,427	15,898
社会活動コスト	ユニバーサルデザイン、環境関連団体への参画、社会貢献活動の実施	0	408
環境損傷対応コスト	売却地における土壌調査	0	0
	合計	230,905	470,109

環境保全効果(前年比)

項目	2008年度実績	2009年度実績	前年度比
PRTR報告対象物質取扱量	122 t	48 t	-74 t
NO _x 排出量	6,990 kg	4,842 kg	-2,148 kg
SO _x 排出量	1 kg	3 kg	+2 kg
CO ₂ 排出量	25,590 t-CO ₂	21,627 t-CO ₂	-3,963 t-CO ₂
廃棄物総排出量	9,512 t	7,043 t	-2,469 t
廃棄物焼却・埋立処分量	217 t	191 t	-26 t
産業廃棄物リサイクル率	98 %	97 %	-1 ポイント
事業系一般廃棄物リサイクル率	98 %	98 %	±0 ポイント
エコマーク登録商品数	12 シリーズ	16 シリーズ	+4 シリーズ

- 集計範囲
株式会社イトーキ
- 集計期間
2009年1月1日~12月31日
- 参考にしたガイドライン
環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」
- 環境保全コストについて
環境保全コストには、環境に寄与する割合を加味する按分基準を設けています。費用額には減価償却費を含みます。

サイト別2009年度実績

	関西工場				滋賀工場			千葉工場※3	物流センター	エコオフィスサイト	
	デスク・パネル		スチール棚	研究施設	チェア、キャビネット	電子機器					
所在地	大阪府寝屋川市 昭栄町	大阪府守口市 金田町3-3-16	京都府八幡市 戸津中代46-1※1	※1	滋賀県近江八幡市 上田町72※2	※2		千葉市緑区大野台2-5-1			
敷地面積	19,440㎡	6,876㎡	23,562㎡※1	※1	97,266㎡※2	※2		72,069㎡			
延床面積	34,691㎡	3,199㎡	9,411㎡	10,740㎡	38,659㎡	8,986㎡		21,418㎡	全国8カ所	全国17カ所	
主要生産品目	オフィス用デスク、テーブルおよびパネル	金庫、喫煙テーブル	スチール棚	研究施設機器	オフィス用チェア、その他のイス類、収納什器等	自動倉庫、自動検査システム等メカトロ機器		建築用内装パネル、建具、壁収納家具等			
	合計	実績	実績	実績	実績	実績		実績	実績	実績	
総エネルギー投入量 (GJ)	365,436	67,515	4,106	23,580	1,380	68,555		4,321	56,225	64,604	75,150
重油・軽油・灯油・ガソリン (kl)	490	11	2	153	2	21		5	1	13	283
LPG (t)	931	380	16	129	0	405		0	0	0	0
購入電力 (千kWh)	22,562	4,716	325	1,153	132	4,754		415	2,701	2,367	6,000
都市ガス (千㎡)	872	25	0	0	0	0		0	712	0	135
水資源投入量 (千㎡)	113	21	1	28	0	25		2	9	4	21
上水 (千㎡)	72	8	1	0	0	25		2	9	4	21
工業用水 (千㎡)	13	13	0	0	0	0		0	0	0	0
地下水 (千㎡)	28	0	0	28	0	0		0	0	0	0
総物質投入量 (t)	20,935	2,886	677	4,051	192	5,979		10	6,704	38	398
金属類 (t)	12,691	1,339	410	3,825	93	4,354		6	2,666	—	—
プラスチック類 (t)	1,157	324	2	5	98	708		2	19	—	—
木質類 (t)	405	383	4	0	0	9		0	9	—	—
梱包材料 (t)	1,017	160	6	100	1	702		0	20	29	—
紙類 (t)	426	426	0	0	0	0		0	0	—	—
石こうボード (t)	3,640	0	—	0	0	0		0	3,640	—	—
コピー用紙、帳票、カタログ類 (t)	423	4	0	1	1	4		2	5	10	398
その他 (t)	1,176	253	255	121	0	202		0	344	—	—
大気への排出量											
CO ₂ (t-CO ₂)	21,627	4,423	268	1,408	78	3,910		243	2,982	4,049	4,267
NOx (kg)	4,842	221	—	829	—	3,613		—	178	—	—
SOx (kg)	3	—	—	—	—	3		—	—	—	—
水域への総排出量 (千㎡)	113	21	1	28	0	25		2	9	4	21
公共用水への排出量 (千㎡)	56	—	—	28	—	25		2	—	—	—
下水道への排出量 (千㎡)	57	21	1	—	0	—		—	9	4	21
廃棄物等総排出量 (t)	7,043	1,041	103	309	66	594		6	1,519	3,217	189
リサイクル量 (t)	6,853	1,034	101	297	61	591		5	1,516	3,077	172
最終処分量 (t)	191	7	2	12	5	3		1	3	140	17

サイト別データ

工場所在地について

- ※1: 研究施設は、スチール棚と同一敷地内です。
- ※2: チェア、キャビネットと電子機器は、同一敷地内です。
- ※3: 京都建材工場(京都府八幡市)は2008年12月より、野田工場(千葉県野田市)は2008年11月より千葉工場(千葉県千葉市)へ移転しました。

測定対象について

- ・総エネルギー投入量: 重油、軽油、灯油、ガソリン、LPG、購入電力、都市ガスの使用量
- ・水資源投入量: 上水、工業用水、地下水の使用量
- ・総物質投入量: 原材料、資材として投入する資源の量、コピー用紙、カタログ類の量
- ・CO₂排出量: 燃料、電力などエネルギー起源の二酸化炭素の排出量
- ・NOx、SOx: ボイラーなどの設備から排出される量。大気汚染防止法施行規則に規定する算出方法の推定値を算出
- ・廃棄物等総排出量: 有価物、一般廃棄物、産業廃棄物の量
- ・リサイクル量: マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルの量
- ・最終処分量: 単純焼却、埋立処分の量

CO₂算出方法について

CO₂排出係数については、環境省「温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」(2006年4月公表)を参考にしました。電力のCO₂排出係数は、一律0.555t-CO₂/千kWhで算出しています。製品の輸・配送に関するCO₂排出量は、改正省エネ法(特定荷主)に準じた算出方法を採用しています。

経年変化グラフ

工場合計について

エコオフィスと物流センターを除いた工場の合算値です。

生産高原単位比について

工場合計実績/生産高で算出しています。また、2005年6月1日に製造部門と販売部門が企業統合したため、2005年を基準年としています。

寄与度の合計値について

寄与度の合計値は、エネルギーの使用の合理化に関する法律における「エネルギー使用と密接な関係を持つ値(原単位の分母)を事業者全体で1つに設定できない場合」に準拠して算出しています。

PRTR対象物質取扱いについて

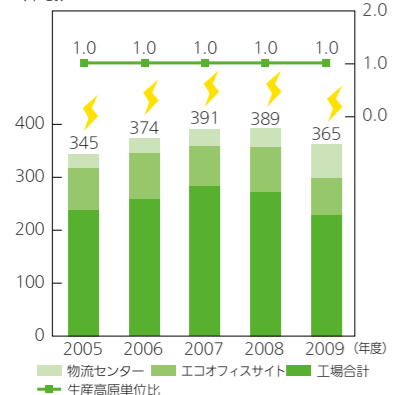
グラフ内の数値は、年間1t以上取り扱うPRTR報告対象物質の合算値です。

廃棄物等総排出量について

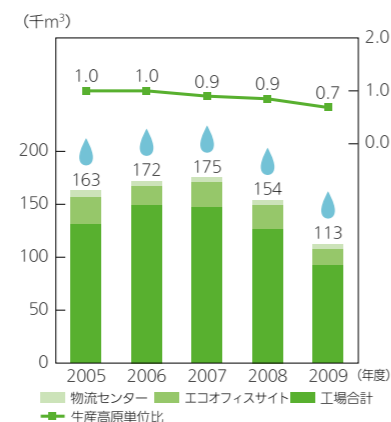
物流センターには、お客様から引き取った使用済み家具を含みます。

INPUT

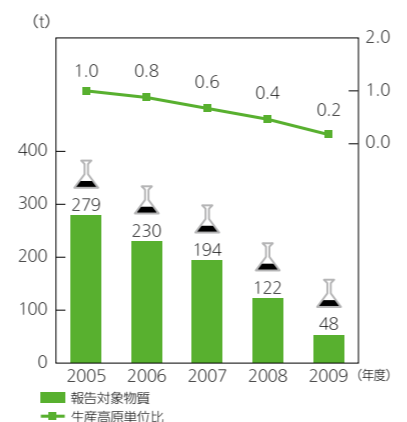
エネルギー使用量と生産高原単位比の推移 (千GJ)



水使用量と生産高原単位比の推移 (千㎡)

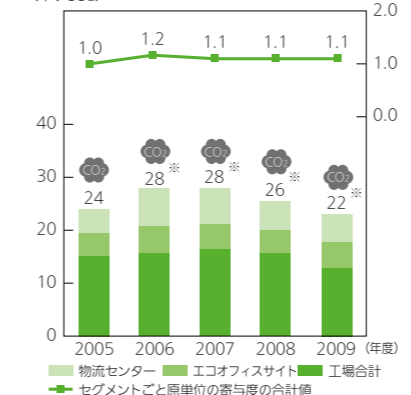


PRTR報告対象物質取扱いと生産高原単位比の推移 (t)

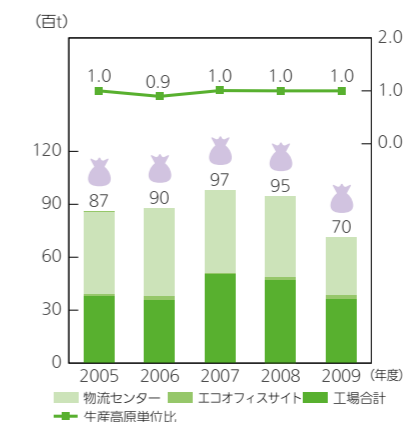


OUTPUT

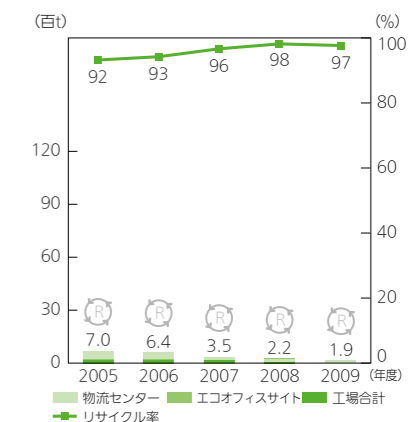
CO₂排出量とセグメントごと原単位の寄与度の合計値 (千t-CO₂)



廃棄物等総排出量と生産高原単位比の推移 (百t)



焼却・埋立処分量とリサイクル率の推移 (百t)



環境方針と環境中期計画

webページはこちら。
<http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/plan.html>

イトーキ環境方針は「企業活動の全ての領域において地球環境への負荷を低減し、その保全に努めます」という当社の経営姿勢に基づいて定めています。
 この環境方針は株式会社イトーキ及びイトーキグループによるグループ全体のものです。

イトーキ環境方針

当社の企業理念に基づき、以下の環境方針を定めます。
 株式会社イトーキ及びイトーキグループは、地球環境問題を21世紀の最重要課題であると認識し、持続可能な循環型社会を実現するため、企業活動の全ての領域で地球環境への負荷の低減を図ります。
 そして、さらに人の多様性を考慮した「人が主役の環境づくり」を目指します。

○行動指針

- 地球環境と人に配慮した製品・サービス及び空間デザインを提供します。製品開発においては、自社基準によるアセスメントを実施し、製品の「Eco(エコ)・プロダクト」化を推進します。また、人と地球が「生き生き」と共創する社会の実現を目指す企業コンセプト「新Ud&Eco style(ユーデコスタイル)」の実践に努めます。
- 日常の業務に環境活動を取り込み、地球環境の保全と汚染の予防に努めます。
 - ①省資源、省エネルギー及びリサイクルの促進
 - ②有害物質の管理の徹底と使用量の最小化
 - ③地球温暖化ガス(CO₂)及び環境汚染物質の管理による放出量の最小化
 - ④グリーン調達、グリーン購入の促進
 - ⑤地球環境負荷の低減に資する技術の研究・開発
- 環境関連法規制等、その他当社が同意する規制・協定等を順守します。更に自ら環境基準を定め、これを順守します。
- 要員一人ひとりに環境方針を周知させるとともに、計画的な教育・訓練を通じて環境意識の向上を図り、業務に反映できるよう人材を育成します。
- 環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

2009年4月1日

株式会社イトーキ 代表取締役社長 松井 正

2009年度スタート 4カ年環境中期計画の柱

環境方針に基づき、重点テーマとして9つの柱を掲げ、2009年度スタートの4カ年環境中期計画を策定しています。

これに従って部門ごとに目標を定め、活動しています。

- | | | | |
|---|-------------------------|---|-------------------------------|
| 1 | Ecoプロダクト・Ud&Ecoプロダクトの推進 | 2 | 有害化学物質管理・情報開示 |
| 3 | 汚染防止 | 4 | 地球環境負荷低減に貢献する技術・ソリューションの研究・開発 |
| 5 | 地球温暖化の防止 | 6 | 廃棄物の削減とリサイクル促進 |
| 7 | 水資源の保全 | 8 | 環境マネジメントシステムの継続的改善 |
| 9 | 社会貢献 | | |

環境目標と2009年度の実績

詳細は下記をご覧ください。
<http://www.itoki.jp/udeco/environment/envreport/purpose.html>

- : 目標達成率100%以上
- : 目標達成率80%以上
- : 目標達成率80%未満
- : 2012年度時達成目標のため評価していません

環境中期計画 全社環境目的・目標と2009年度実績

全社環境目的	環境目標	2009年度 目標値	2009年度 実績	評価	2010年度の目標値 *一部2012年までの目標値
1 Ecoプロダクト・Ud&Ecoプロダクトの推進	Ecoプロダクトシリーズ数の向上、販売促進	Ecoプロダクト「選定15品目」の販売促進 Ecoプロダクト新基準導入準備 2010年以降の目標設定	Ecoプロダクト「選定15品目」の販売促進 目標達成率70.9% Ecoプロダクト新基準の運用開始準備完了	●	Ecoプロダクトの開発 Ecoマーク取得製品のうち選定11品目についての販売促進
	Ud&Ecoプロダクトシリーズ数の向上、販売促進	Ud&Ecoプロダクト新基準導入準備 2010年以降の目標設定	Ud&Ecoプロダクト新基準の運用開始準備完了	●	Ud&Ecoプロダクトの開発 Ud&Ecoプロダクト販売促進
2 有害化学物質管理・情報開示	製品含有化学物質の把握・管理	主要製品含有VOCデータベースの構築と運用	主要製品含有VOCデータベースの運用開始	●	化学物質管理ガイドラインの作成
	製品からのVOC放散量の把握				主要製品VOC放散量の測定と把握
3 汚染防止	生産拠点の汚染防止	粉体塗装への設備切り替え 大気汚染の防止、水質汚染の防止、 土壌汚染の防止 法・規制等の100%順守、管理の徹底	滋賀工場、チェアの粉体塗装への設備切り替え 法、条例、自主規制値の継続的監視と順守	●●●	接着工程から排出されるVOCの削減検討と削減策の実施 大気汚染の防止、水質汚染の防止、土壌汚染の防止 法・規制等の100%順守、管理の徹底
4 地球環境負荷低減に貢献する技術・ソリューションの研究・開発	有害化学物質の削減技術の研究開発	ケミレス素材の開発 ケミレス基準の設定と素材の体系化	ケミレス基準の設定と素材の体系化	●●●	主要製品への展開と商品化
	化学物質除去技術の研究開発	有害物質特定調査	特定化学物質の吸着及び分解性能測定を実施	●●●	化学物質除去技術の機能向上研究
5 地球温暖化の防止	CO ₂ 排出量の削減	イトーキグループのCO ₂ 排出量の削減	(グループ)データ整備(単体)セグメントごと原単位の寄与度の合計値で2007年度比4%削減※	●●	(グループ)JOIFA自主行動計画および京都議定書をクリアする目標値の設定 (単体)セグメントごと原単位の寄与度の合計値で2007年度比6%削減
	お客様先でのCO ₂ 削減を含む環境負荷の低減		環境負荷低減につながる提案活動の推進	●●●	環境配慮型オフィスの提案活動の推進
	カーボンフットプリント制度への対応	製品CO ₂ 情報の把握、公開	主要製品のカーボンフットプリントの算出	●●●	カーボンフットプリントの算出全社展開
	EOM(エコオフィス・マネジメント)の開発	環境配慮型ワークの支援 環境配慮型ビジネスの創造 環境配慮型プロモーションの実践	EOM(エコオフィス・マネジメント)のフレームを策定し、実施プラン・目標値を設定する プロモーション方法の見直し	●●●	環境配慮型ワークプレイスの提案 エコビジネスの事業化 ワーキングショールームでの展開
6 廃棄物の削減とリサイクル促進	産業廃棄物排出量の削減	産業廃棄物排出量の削減	前年比 +1.6%	●	売上高原単位で前年比1%削減
	産業廃棄物のリサイクル促進	産業廃棄物のリサイクル促進 リサイクル率目標2012年98%	リサイクル率 97.0%	—	リサイクル率目標2012年98%
	事業系一般廃棄物排出量の削減	事業系一般廃棄物排出量の削減 売上高原単位で前年比1%削減	前年比 -2.7%	●●●	売上高原単位で前年比1%削減
	事業系一般廃棄物のリサイクル促進	事業系一般廃棄物のリサイクル促進 リサイクル率目標2012年99%	リサイクル率 98.0%	—	リサイクル率目標2012年99%
7 水資源の保全	生産活動に伴う水資源使用量の削減	生産高原単位で前年比1%削減	前年比 -12%	●●●	生産高原単位で前年比1%削減
8 環境マネジメントシステムの継続的改善	グループとしての環境管理活動	グループ会社のEMS推進	グループ会社へのEMS構築支援実施	—	グループ会社のEMS推進 2012年 全連結子会社のEMS構築完了
	グリーン購入・調達の実施(生産部門)	調達先グリーン調達のしくみの見直しと運用	主要調達先グリーン調達率 87%	—	グリーン調達のしくみの運用 2012年 主要調達先 グリーン調達90%
	グリーン購入・調達の実施(仕入製品)	仕入先のグリーン調達推進	主要仕入先グリーン調達率 88%	—	仕入先のグリーン調達推進 2012年 主要仕入先 グリーン調達90%
	グリーン購入(全社)	グリーン購入推進の整備	グリーン購入管理規程を改訂	●●	全社・グループ会社グリーン購入の推進
9 社会貢献	地域に貢献できる活動の実施	地域貢献活動推進の枠組み整備	地域・近隣の環境保全活動への参画・支援を実施。枠組は整備中	●	全社・グループ会社での地域貢献活動推進
	環境教育への貢献	環境知識向上のための社外環境教育推進の枠組み整備	社外からの講演依頼を受け環境教育を実施。枠組は整備中	●	社外環境教育の推進
	エコマインドあふれる社員の育成	全社・グループ会社のすべての要員のイトーキグループ環境活動への参画意識の醸成	グループ会社のEMS構築支援を通じて、すべての要員の環境活動への参画意識の醸成を図った	●	全社・グループ会社のすべての要員のイトーキグループ環境活動への参画意識の醸成

※CO₂目標値を「売上高原単位」から「セグメントごと原単位の寄与度の合計値」に変更しました。
 寄与度の合計値は、省エネ法における「エネルギー使用と密接な関係を持つ値(原単位の分母)を事業者全体で1つに設定できない場合に準拠して算出しています。

2009年度の環境活動

2009年度は、グループ企業への環境活動の拡大と、事業コンセプト「新Ud&Eco style(ユーデコスタイル)」の展開を踏まえ、「イトーキ環境方針」を改訂しました。この方針のもと、製品の安全・安心や地球環境負荷の低減をめざし、環境中期計画で掲げた目標の達成に取組みました。活動の成果が目標の達成として現れている項目もありますが、残念ながら目標達成率の低い項目については、さらに積極的な活動を展開したいと考えています。

2010年度の活動方針

2010年度は、引き続き環境中期計画の目標達成に取組むと共に、2009年度展開を開始した、「新Ud&Eco style(ユーデコスタイル)」のコンセプトに基づいた製品やソリューションの開発・提供を通して、楽しさや情熱、感動や創造を得られる人の真の快適さの提供と、地球環境保全を目指し、イトーキグループを挙げて活動を展開します。

株主とのコミュニケーション

事業活動の情報を公正かつ迅速に開示しています

公正・迅速な情報開示

イトーキでは、経営や事業活動に関する情報を公正かつ迅速に開示することに努めています。そのポリシーは、各種法令及び東京証券取引所の定める適時開示規則に基づいた情報開示はもとより、株主・投資家の皆様のニーズに対応した情報についても積極的に開示することに努めています。情報開示においては、その重要性や内容に応じて、説明会など最適な方法を選択して行うとともに、ホームページ上に記載しています。

株主・投資家の皆様との対話

イトーキでは、株主・投資家の皆様からいただいたご意見を、経営に反映していくことを重視しています。

株主の皆様に対する年1回の定時株主総会をはじめ、機関投資家・アナリストの皆様に対する年2回の決算説明会、個人投資家の皆様に対する会社説明会を開催しています。こうした説明会では、経営トップ自らが業績の説明だけでなく、事業戦略や経営の方向性に関する説明を行っています。また、このほか国内機関投資家訪問、海外投資家とのテレカンファレンスなど個別ミーティングや事業説明会、施設見学会を適時実施しています。

継続的かつ安定的な配当対策を推進しています

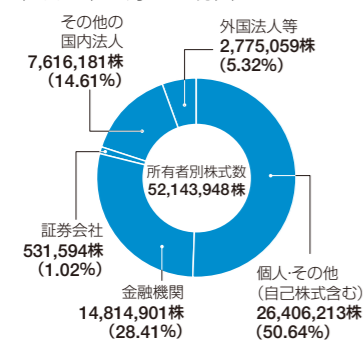
配当に関する方針・実績

イトーキでは、株主の皆様への利益還元を経営の重点政策のひとつと認識し、会社の収益状況、内部留保の充実、今後の事業展開などを総合的・長期的に勘案した上で、継続的かつ安定的に配当することを利益配分の基本方針としています。

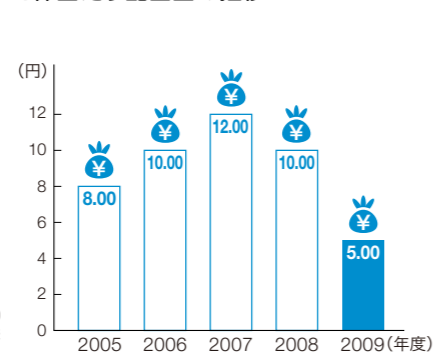
2009年度の配当金は、1株につき5円といたしました。

イトーキの株主構成

(2009年12月31日現在)



1株当たり配当金の推移



詳細は下記をご覧ください。
<http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/stockholders.html>

●対話を深める説明会、ミーティングを積極的に開催



機関投資家向け決算説明会(2009年2月25日)

●ホームページにおける情報公開

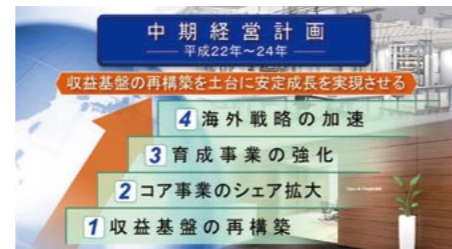


情報開示の方法については、その重要性や内容に応じて、ニュースリリース、公告、説明会など最適な方法を選択して行うとともに、webサイト「IR情報」に記載しています。決算短信や有価証券報告書、アニュアルレポートなどのほかにも、決算説明会のプレゼンテーション資料や会社概況等の資料も掲載しています。

<http://www.itoki.jp/ir/>

●株主総会映像に CUD(カラーユニバーサルデザイン)を導入

本総会の映像は、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの方に見やすいよう配慮されたカラーユニバーサルデザインであることが、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構によって認定されています。



第60回定時株主総会(2010年3月26日開催)では、プレゼンテーション用スライドに、色弱者に配慮したデザインや配色で制作するCUD(カラーユニバーサルデザイン)を導入しました。

社会とのコミュニケーション

地域や環境関連団体の社会貢献活動に参加しています

エコキャップ運動

ペットボトルのキャップを集めて、世界の子供たちにワクチンを送るボランティア運動を実施しています。2009年12月時点での当社が回収した累積回収数は、130,548個となり、ワクチン本数に換算すると、163人分の購入資金にあたります。

「海の森」プロジェクト

「海の森」プロジェクトは、東京都が運営する「緑の東京募金」の進める事業のひとつ。ゴミによって造成された東京都中央防波堤内側埋立地に、市民、企業、ボランティア協賛者の寄付および植樹活動などにより苗木を植え、美しい森に生まれ変わらせる計画です。イトーキ東京本社のある入船地区オフィスビルから排出される廃棄物の一部が、中央防波堤埋立処分場で処理されていることから、2009年9月に実施しました。

ステナイBOOK

「ステナイBOOK」は、「NPO法人シャプラニール(市民による海外協力の会)」と「ブックオフ」が実施する、不要な本やCDなどを、ストリートチルドレンや南アジアの人々の生活向上のための支援活動に役立てる活動です。イトーキでは2009年12月から、企業としてこの活動に参加しています。

地域の環境美化への協力

全国にある工場や物流センター内の緑化や、オフィス周辺地域の清掃などの美化活動を行っています。また、近隣の児童を招いての工場見学会やボランティア活動に参加するなど、環境活動を通じて地域交流を行っています。

中国の砂漠緑化への協力

イトーキは、砂漠緑化・砂漠化防止を目的としたNPO「緑化ネットワーク」の植林活動に賛同し、中国内蒙古自治区通遼市のホルチン砂漠の緑化に協力しています。

ユニバーサルデザイン、環境保全の普及活動を行っています

関連団体への参加と講演の実施

ユニバーサルデザインや環境の関連団体やNPOと連携し、最新の動向調査や研究などを行っています。これらの研究成果は、企業活動に活かすとともに、研究発表や講演会などを通じて、社会全体への普及に努めています。2009年度は、2月の「IAUDユニバーサルデザイン大会in東海」において、労働環境プロジェクトの一員として研究成果の発表を行いました。また、6月にはケミレス推進協議会とともに、韓国釜山で開催された「第3回WHO子供の健康と環境に関する国際会議」でポスターセッションを行いました。

詳細は下記をご覧ください。
<http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/society.html>

●「海の森」プロジェクトへの寄付を実施



2009年9月25日、東京都庁にて目録贈呈式を行いました。

●ステナイBOOK活動への参加



ステナイBOOK 社内ポスター

●地域の環境美化への協力



淀川河川敷のクリーンアップ活動「LOVE遊淀川上流クリーン作戦2009」

●2009年度の講演内容

- ・「滋賀工場の省エネの取り組みとVOC対策」 滋賀県東近江地域振興局主催
- ・「イトーキの環境への取り組み」 早稲田大学 環境研修会にて
- ・「製品のどこに人間工学を活かすか」 日本人間工学会・静岡県ユニバーサルデザイン工芸研究会共催



滋賀県東近江地域振興局主催のセミナーで、「滋賀工場の省エネの取り組みとVOC対策」をテーマに、講演しました。

●ユニバーサルデザインと環境に関する主な参加団体(2009年12月現在)

- ・グリーン購入ネットワーク(GPN)
- ・エコイノベーションとエコビジネスに関する研究会(SPEED研究会)
- ・日本人間工学会
- ・国際ユニバーサルデザイン協議会(IAUD)
- ・日本LCA学会
- ・ケミレス推進プロジェクト

従業員とのコミュニケーション

評価制度と社員教育の充実を図っています

評価制度

イトーキの評価制度は、目標の達成度で評価する「業績評価」と職務遂行能力と執務態度で評価する「職能・執務評価」から構成されています。目標設定・評価は本人の申告や上長との面談により決定され、給与・賞与・昇格に反映されます。社員の目標達成の積み重ねが会社の業績に結びつくという考え方のもと、賞与の総枠は会社業績に連動するしくみを採用しています。

人材育成について

新入社員研修や管理職研修など階層別教育のほか、全社横断的な教育として職種別教育、各部門に必要な専門教育として部門別教育を行い、さらに各種資格の取得支援も実施しています。

営業強化研修「イトーキアカデミー プラス」

営業力強化プログラムであるイトーキアカデミーシリーズの1つで、自主参加型の研修です。2009年度は首都圏の若手を中心に集まり、オフィスの基礎的な知識の習得や、営業スキルの向上を目的として、9月～12月にかけて計8回開催しました。

ワークライフバランスの実現をめざし、勤務制度の充実と職場の環境づくりに努めています

イトーキでは多彩な人材が活躍できる職場の風土づくりと、その活性化をめざし、各種勤務制度を充実させ、仕事と家庭を両立できるワークライフバランスの推進を行っています。

各種勤務制度・福利厚生制度

育児休業・短時間勤務期間の延長など育児・介護支援制度を充実させ、仕事と家庭の両立を支援する働きやすい体制・職場環境づくりを推進しています。また、従業員のモチベーションを高めるために、職務上の成果や改善、提案活動に対する各種報奨制度も導入しています。

多様な働き方の実現をめざす試みを行っています

多様な働き方に向けた人事制度を検討

イトーキでは、感動を分かちあえる会社の実現に向け、2009年2月にイトーキ労働組合、人事部、各部門からの選抜メンバーによる「人事制度改定検討プロジェクト」を結成。評価制度や昇降格基準、賃金・諸手当、人材育成、育児・介護、定年再雇用、裁量労働制など、分科会や全体会議を開催しました。ワークライフバランスの実現や多様な働き方をサポートするしくみについて意見を出し合い、よりよい制度に向けて討議しました。

●従業員関連データ

	女性	男性	総数
正社員総数	402人	1,502人	1,904人
正社員以外の雇用人数 (直接雇用する契約社員)	46人	306人	352人
従業員平均年齢	34歳6カ月	42歳5カ月	40歳9カ月
従業員平均勤続年数	9年6カ月	15年11カ月	14年7カ月
障がい者雇用人数	3人	23人	26人
障がい者雇用率	1.52%		
再雇用人数	0人	66人	66人
産休取得者数	7人	0人	7人
育休取得者数	8人	0人	8人
短時間勤務者数	18人	0人	18人
シフト勤務者数	3人	2人	5人

2009年12月31日現在(※産休・育休取得者は重複あり)
正社員および正社員以外の雇用人数の集計は、当社が定める各種規程・制度の対象となる社員および契約社員を対象としています。産休・育休取得者数は、2009年度に休業を開始した人数です。

●福岡県の提唱する「子育て応援宣言登録制度」に参加



イトーキ西日本支社では、2009年1月に子育て応援宣言をしました。配偶者の出産に際しての特別有給休暇制度や育児中の勤務時間の短縮、休業中の不安をよわらげるコミュニケーションの実施など、職場全体で従業員の子育てと仕事の両立を応援しています。

●メンタルヘルス研修



2009年度は、一般社員向けのメンタルヘルス研修を、より内容を充実させて実施しました。大阪・東京・九州のオフィスと、千葉工場で開催し、222名が出席しました。(これにより、2007年度からの延べ参加人数は、1504名となります。)すべての社員が一度は受講できるように2010年度も開催を予定しています。

●健康診断受診率の向上



2009年度は健康ヘルプデスクの開設に加え、社内向けに健康診断受診を呼びかけるポスターを掲示するなどにより、受診率99%を達成しました。2010年度もさらなる受診率のアップをめざしています。

長時間労働の減少に向けた取組み

労働時間管理の適正化に向け、時間外労働や休日出勤の事前申請制度の徹底など、長時間労働・労働時間管理に対する社員全員の意識改革を推進しています。2010年度からは、各部門ごとに時間外勤務状況の洗い出しと改善目標の設定と社内への開示により、業務の「見える化」を行い、部門によって異なる長時間労働問題の原因究明と解決策を実行していきます。

社員の健康管理をサポートしています

心身両面の健康をサポートするIHM(イトーキヘルスマネジメント)

2007年度に、社員の健康増進をサポートするプロジェクト「IHM(イトーキヘルスマネジメント)」を立ちあげました。社員全員が「自律した社員」となれるような「いきいきと働ける環境づくり」をめざしています。2009年度は、メンタルヘルス研修、健康教室、健診ヘルプデスク、イトーキランチナビの4つの分科会で活動を行いました。

安全衛生活動を積極的に推進しています

法令を順守し従業員が安全で安心して働ける職場環境を構築すると共に、健康の維持と増進に努めています。安全衛生管理活動は企業の本業であり安全は企業活動の基本条件であることを全員が認識し、労働災害の防止を図ることを目的に、全社安全衛生委員会、事業場ごとの安全衛生活動、協力会社様との災害防止協議会、安全大会を基に活動しています。

新型インフルエンザ対策

2009年9月には新型インフルエンザ(A/H1N1)の対策として、罹患者の早期伝達と感染予防に向けた社員の行動指針を策定し、「手洗い」や「うがい」の励行などを呼びかけ、感染予防に努めました。また、東京地区では各部門ごとに連絡網を整備するなど、有事の際の社内体制を整えています。

労働組合ではコミュニケーションを推進しています

同世代コミュニケーション

イトーキ労働組合の組織は4等級(課長相当)までを組合範囲とし、職種の枠を越え、全国に展開しています。職場内でのコミュニケーションの活性化をはじめ、次代を担う若手社員による「i-next」、または育児に携わる社員を中心とした「i-mama TALK」等を実施しています。このほかにも「職場コミュニケーション」「グループ別コミュニケーション」を設け、円滑な対話を推進しています。

詳細は下記をご覧ください。
http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/employee.html

●健康教室

イベント的に楽しみながら学べる場の提供を目指し健康教室を開催しています。2009年度はインフルエンザをテーマに産業医による講演会を、東京・大阪・各工場で開催しました。健康保険組合の協賛により、東京・大阪では予防接種の集団接種も実施しました。

●イトーキランチナビ



オフィス周辺のお店で、人気のランチメニューの栄養バランスやカロリーをまとめた「イトーキランチナビ」を発行。それぞれのメニューには、社団法人日本栄養士会様のご協力により、食事バランスガイドに加え、「栄養士アドバイス」をプラスしています。2008年度の東京版・大阪版に引き続き、2010年度は名古屋版・福岡版も発行されました。

●東京地区安全大会



協力会社70社とイトーキ関係社員28名が参加して2009年6月に開催された東京地区安全大会。中央労働基準監督署様をゲストに迎え、ご指導いただきました。

●労働災害に関するデータ (2009年度 関西工場、滋賀工場、千葉工場)

休業災害件数	不休業災害件数	度数率	強度率
2件	10件	2.55	0.05

※度数率:100万延べ実労働時間あたりの労働災害による死傷者数
※強度率:1,000延べ実労働時間あたりの労働損失日数

●i-mama TALK2009



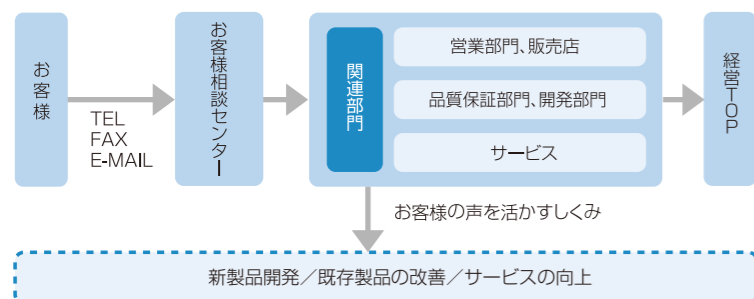
2008年度に開催した「育児と仕事の両立を応援する座談会」に引き続き、2009年度は育児に携わる社員が参加し、育児と仕事の両立をサポートする「i-mama TALK2009」を開催しました。第2回を迎えたテーマは「育児でガンバルママ・パパたちのしゃべり場」。育児と仕事を両立するための秘訣や悩みについて情報交換やネットワークづくりの場にもなっています。

お客様とのコミュニケーション

お客様の声を活かすため、お客様相談センターを開設しています

お客様相談センターは、イトーキに対してのお問い合わせ、ご要望、ご意見、ご指摘などを直接いただける窓口です。お客様ニーズにお応えるために、商品知識や対応力アップに励んでいます。ご要望にきちんと応えるサービスはもちろん、満足度を高めるサービスを高め、さらには危機管理対応力など応答の品質向上にも努めています。

お客様相談センター受信情報の流れ



社内基準を設け、製品品質と信頼性の向上に努めています

品質基準と性能確認

新製品の開発においては、企画、設計、量産試作の各段階で厳しい審査に合格した製品だけが新製品として発売されます。製品はJIS規格、業界規格等の適合とともに、よりレベルの高い「社内基準」でチェックされ量産されます。

専門技術・技能教育と品質会議

設計開発、製品安全、製造、品質管理などに関係する専門的な技能、知識を習得し、レベルアップを図るための専門的な技能教育を定期的に開催しています。また生産統括部および仕入商品、工事監理、物流部門にいたるまで、「品質会議」を毎月開催。生産、搬入、施工、使用の各段階を通じて、三現主義（現場、現物、現実）に基づいた組織横断的な品質をめざしています。

ショールームを全国6カ所で展開しています

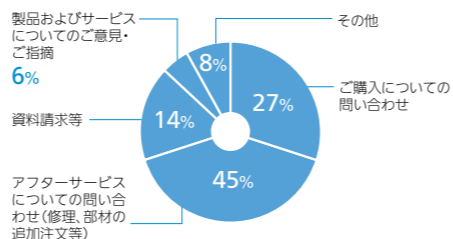
ショールームを全国に展開

全国6カ所（東京・大阪・横浜・名古屋・広島・福岡）にあるショールームでは、イトーキの提案する新しいワークスタイルをご覧いただけます。東京ショールームや大阪ショールームなどは、社員が実際に働いているところを体感できるワーキングショールームとなっています。また、家庭用家具向けの生活空間を体感できるホームギャラリー（東京・大阪）や、歴代のヒット商品やオフィス文化の歩みを伝える史料館もあります。

Web 詳細は下記をご覧ください。
<http://www.itoki.jp/showroom/swf/>

詳細は下記をご覧ください。
 Web <http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/customer.html>

●お客様相談センターに寄せられたお問い合わせ



2009年度 お問い合わせ件数 **25,779**件

お客様相談センターでは、お客様からいただいた貴重なご意見を経営トップおよび関連部門に速やかに報告しています。いただいたご意見を製品・サービスの改善や今後の新製品開発につなげていくために、「お客様の声を活かすしくみづくり」をさらに強化していきます。

●お客様相談センター

☎ **0120-164177**
 ホームページからのお問い合わせは下記をご覧ください。
 Web <http://www.itoki.jp/cs/>

●さまざまな製品試験を社内実施



社内に製品の耐震性能を実験する「3次元振動試験機」を保有し、各製品の耐震性能の把握、ユーザーに対する耐震性能情報の提供、他企業との共同研究など、地震に対する安全確保の技術蓄積を図っています。

間仕切の耐震試験

●技術向上のための研修を実施



年1回行われている溶接技能レベルアップ研修の様子

●イトーキの歩みを展示するイトーキ史料館



販売代理店とのパートナーシップ

全国代理店の皆様へ営業支援システムを提供しています

イトーキは直接販売だけでなく、全国代理店の皆様を通じて製品を販売しています。代理店の皆様とのパートナーシップを強化するために、「I-WOS (ITOKI Web Order System)」というイトーキの製品情報や販促資料の入手、受発注・見積作成等ができる支援システムを提供しています。以前は電話やファックスで送られていたさまざまな情報を、このシステムにより直接、タイムリーにお届けすることができるようになりました。社内の営業担当の人数をはるかに超える、約2,900名(2010年4月現在)の方々に登録いただいています。

また、I-WOSは代理店様紹介というコーナーを設け、代理店様間の情報共有の場としてもご利用いただいております。

イトーキと代理店の皆様のコミュニケーションを深める場を提供しています

全国代理店社長会議の開催

年に一度、基準以上の売上を上げた代理店の社長の皆様に招待する全国代理店社長会議を開催しています。この会議は、代理店の社長の皆様に向けイトーキ経営陣から直接経営方針を説明し、イトーキが何をめざしているのかを理解していただき、ベクトルを合わせた販売活動をお願いするものです。

また、優秀代理店表彰やゲストを招いての講演会、懇親会も開催されます。なかでも懇親会は、情報共有・意見交換を行える貴重な機会となっています。

代理店社員研修の開催

代理店の皆様の販売強化を目指し、各種研修会を開催しています。各職種別に行われる「IDFカレッジ」は、受講者アンケートを元にカリキュラムの見直しを毎年実施。2009年度は、営業やデザイナー向け研修など、約80名の方にご参加いただきました。

地区イトーキ会の開催

全国を8エリアに分け、各地域の代理店の皆様を中心に運営いただいている地区イトーキ会においても、各種研修会等を実施。代理店の社員の方々の情報交換の場にもなっています。2009年度は千葉工場の見学会を企画し、多数の方々にご参加いただきました。

詳細は下記をご覧ください。
 Web <http://www.itoki.jp/udeco/environment/socreport/agent.html>

●代理店専用の情報提供・受発注システム「I-WOS」



代理店の社員の皆様お一人ごとにユーザーIDを発行しご利用いただく、情報提供・受発注システムです。商品検索機能の他、商品ニュースなどの最新情報も提供しています。

●全国代理店の皆様に向けた広報誌「IDN」を発行



年数回発行されている広報誌「IDN (ITOKI Dealer Network)」。イトーキから提供する情報はもちろん、代理店の皆様の最新動向など、親近感をもっていただける記事掲載を心がけています。

●販売をサポートするためのさまざまな研修会を実施



実際に顔を付き合わせて行われる集合研修・会議は、イトーキと代理店の皆様だけでなく、参加者同士の重要なコミュニケーションの場でもあります。「多くの方々と接することで、色々な角度から考え、見ることができました」「さまざまなデザイナーに会え、刺激になりました」などの感想もいただいております。さらに関係が深まっていくような場を提供したいと考えています。(写真は営業初級者、デザイナー中級者研修)

全国代理店一覧は以下をご覧ください。
 Web <http://www.itoki.jp/dealer/>

コーポレート・ガバナンスに取り組んでいます

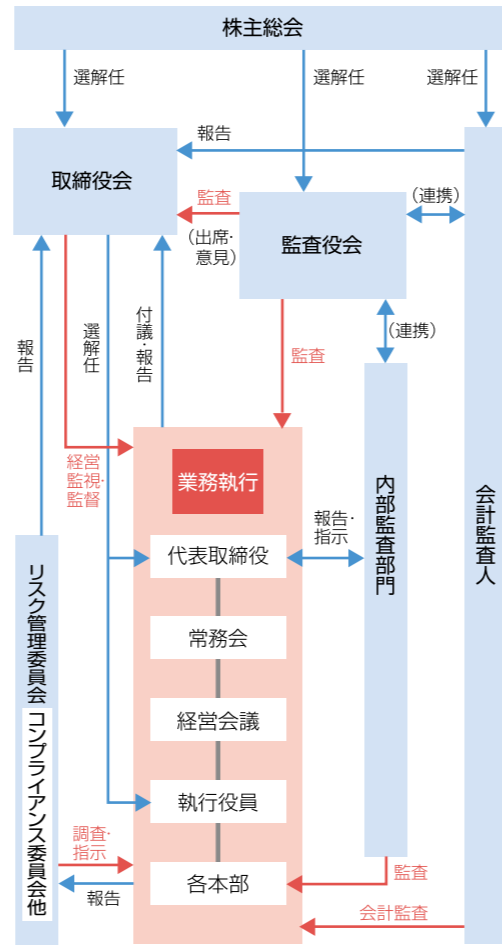
コーポレート・ガバナンス体制

イトーキは監査役制度を採用し、取締役会において経営の意志決定と業務執行の監督を行っています。取締役会を補完する機能として常務会・執行役員会議を開催し、重要決裁事項の審議、経営方針の徹底、業務進捗状況の確認などを行っています。また、業務執行の機能強化・経営効率の向上を目的として「執行役員制度」を導入しています。監査役は、取締役会などに出席し、取締役の業務執行状況を監査し、監査役会は、会計監査人および業務執行部門から独立した内部監査部門と連携し、総合的かつ効率的な監査の実施に努めています。内部監査部門は、計画的に監査を実施することで、グループ全体の内部監査の充実を図っています。

内部統制システムの構築

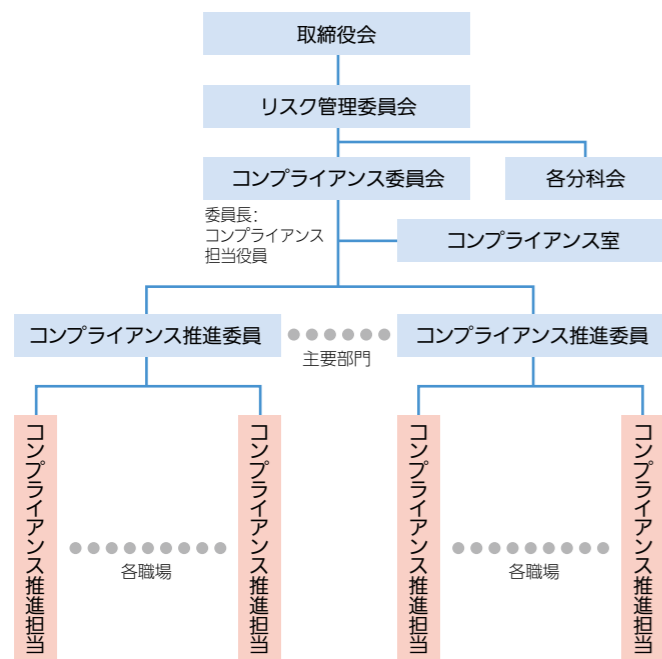
イトーキでは会社法の施行にともない、内部統制システムの全社横断的・網羅的・一元的な構築に向けて、2006年5月、取締役会において基本方針を定め、この基本方針に則った体制の整備に努めています。2008年の3月および12月には、基本方針の一部に社内体制の変更などを反映させた改訂が加えられました。また、金融商品取引法に基づく財務報告にかかわる内部統制報告制度（J-SOX法）への対応については、2009年1月より「内部統制監査室」と「内部統制推進室」を設置し、財務報告の信頼性・適正性を確保するために必要となる体制の構築、運用に努めています。

●コーポレート・ガバナンス体制図

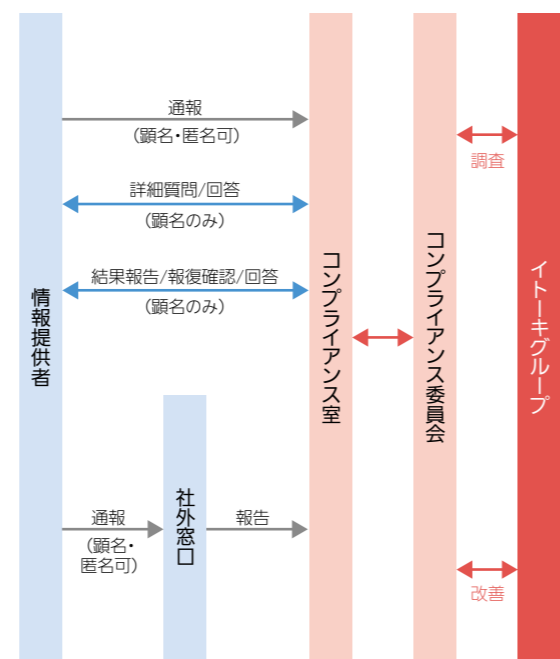


取締役会は社外取締役1名を含む全7名の取締役で構成され、監査役会は社外監査役2名を含む全4名の監査役で構成されています。(2010年4月現在)

●コンプライアンス推進体制図



●内部通報制度図(ヘルプライン対応フロー)



リスクマネジメントの体制強化を進めています

2009年度に新設したリスク管理部では、「イトーキグループリスク管理基本規程」のもと、リスクマネジメントの体制づくりを進めています。リスク管理基本方針の目的は、企業活動に関わるさまざまなリスクを想定し、未然にその対応策を実施することにより、事業継続に関わる重大なリスク64項目を「リスク一覧」にまとめ、社内のコンセンサスを図りました。また、2008年度に取得したISMSおよびPマークへの取組みの強化に向け、全従業員への周知・教育を徹底しています。2010年度は、これらリスクの未然回避と、問題発生時の迅速な対応に向けた体制づくりをさらに推進していきます。

独占禁止法違反および防耐火問題について

■防衛省航空自衛隊入札における独占禁止法違反について

2010年3月、防衛省航空自衛隊発注の特定什器類の入札について、公正取引委員会より排除措置命令および課徴金納付命令を受けました。指摘のあった独占禁止法の違反行為については、すでに取りやめている旨を社内で確認しており、今後は再発防止に努め、社内コンプライアンス体制の一層の強化に取り組んでまいります。今回の件で、お客様をはじめ関係の皆様方に多大なご迷惑とご心配をおかけしました。深くお詫び申し上げます。
【本件に関するお問い合わせ先】 経営企画部 広報IR室：TEL.03-5566-7041

■防耐火問題について

2007年11月、防耐火の認定仕様と異なる製品を販売した件について、2008年に引き続き、お客様へのご説明、現地調査や改修工事を実施し、これまでに対象となる230件のうち、197件が改修工事を完了しております。改修工事と並行して、社内再発防止の基本規定を制定し、再発防止の徹底に取り組んでおります。2010年度も、対象となるお客様への万全の対応を行ってまいります。
【本件に関するお問い合わせ先】 防耐火問題対策室：TEL.03-3546-7412

概要と今後の対応などについては「マネジメント体制」をご覧ください。
<http://www.itoki.jp/udeco/environment/mngsys/>

●事業継続に関するリスク64項目を一覧表に

2009年度、リスク管理部では事業継続に関するリスクを洗い出し、12月には重要度の高い64項目を一覧として明文化しました。リスクの未然回避と問題発生時の迅速な対応に取り組んでいます。項目は社会状況と照らし合わせ常に見直していきます。

リスクマネジメント
<http://www.itoki.jp/udeco/environment/mngsys/>

●外国人を含む全従業員へのPマークの周知・徹底

2009年1月、イトーキでは全社でプライバシーマーク（Pマーク）を取得しました。2009年度は全従業員への周知と個人情報保護の徹底に向け、教育テキストをわかりやすく再編集しました。また、外国人従業員向け、ポルトガル語、中国語、ハンガリー語版を作成し、工場等への掲示を行い、周知を図っています。

個人情報保護方針
<http://www.itoki.jp/privacy/>

●コンプライアンス活動



コンプライアンス研修については2008年度に引き続き、「一人ひとりの社員のリスクに対するセンスを高めるため」に、コンプライアンス一般研修を実施しました。コンプライアンスの意識啓発や諸規程の周知徹底を図るため、「コンプライアンス・プログラム」の内容を冊子化した改訂版「イトーキグループ行動規範」を発行し、グループ会社を含め配布しています。

コンプライアンスへの意識向上を図っています

コンプライアンス活動

2005年に制定した「イトーキグループ行動規範」に則り、コンプライアンスの徹底を図ってきました。2009年度は、コンプライアンスへの意識啓発や諸規程の周知徹底をさらに進め、コンプライアンス研修会を実施。2008年度より継続してきた研修は、全国を一巡し、グループ会社にも同様の研修を実施しています。また、役員、各部門長で構成するコンプライアンス委員会を2回開催しました。

コンプライアンス体制

コンプライアンス室を事務局とし、担当役員を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置しています。コンプライアンス委員会は、グループ経営すべてに対する調査、報告・指示の役割を担っています。また主要部門にコンプライアンス推進委員、全職場にコンプライアンス推進担当を配置しています。

CONTENTS

トップメッセージ 02

会社概要 / 財務データ / 事業内容 34

コーポレート・ガバナンス 33

リスクマネジメント / コンプライアンス 32

社会性報告

お客様とのコミュニケーション 31

販売代理店とのパートナーシップ 30

従業員とのコミュニケーション 29

株主とのコミュニケーション 27

社会とのコミュニケーション 26

環境報告

環境方針と環境中期計画 25

環境目標と2009年度の実績 24

環境パフォーマンス 23

事業活動と環境負荷 21

環境への投資と効果 20

環境マネジメント 19

グループ企業の環境活動 18

はじめに・編集方針

本報告書は、企業コンセプトである新Ud&Eco style (ユードエコスタイル) を追求し、「人も生き生き、地球も生き生き」する社会を目指すイトーキの企業活動を、多くの方によりわかりやすくお伝えするものです。

2010年版では、2009年度の社会活動・環境活動である「社会性報告、環境報告」と、そこから生み出される製品・空間・ソリューション提案を取り上げた「特集」で構成しています。特集では外部の方に取材していただき、ご意見をいただきました。より客観的な視点でいただいたご意見は、今後の活動に活かせるものと考えています。

今後も、ステークホルダーの皆様との対話を大切にし、環境・社会活動とその情報公開に努めてまいります。webサイトにアンケートをご用意しています。ぜひ、本報告書やwebサイト、取組みへのご意見・ご感想をお寄せください。

幅広いステークホルダーの方々にお読みいただくために、冊子とwebサイトの連携により情報を公開します。

webサイトに環境・社会活動にかかわるすべての情報を掲載し、冊子はダイジェスト版としています。冊子のページ見出しごとにwebアドレスを記載しましたので、ぜひあわせてご覧ください。また、デザイン面では読みやすい誌面を目指し、書体はUDフォントを採用し、図版はコントラストを明快にしています。

<p>○環境・社会報告書 2010 (冊子)</p>  <p>環境・社会活動において重要性の高い取組み、2009年度の取組みを中心に紹介しています。</p>	<p>○環境・社会報告 (webサイト)</p>  <p>冊子に掲載できなかった詳細情報も含めて、環境・社会活動内容のすべてを網羅しています。</p>	<p>○年次報告書 (webサイト)</p>  <p>経済性報告については、別途「年次報告書」を発行し、webサイト「IR情報」に掲載しています。</p>
--	--	---

<p> ホームページ Ud&Eco style 環境・社会報告 IR情報</p>	<p>http://www.itoki.jp/ http://www.itoki.jp/udeco/ http://www.itoki.jp/udeco/environment/ http://www.itoki.jp/company/ir/</p>
---	--

■ **主な報告対象者**
お客様、代理店、株主・投資家、従業員、調達先、グループ会社、事業所近隣住民 (敬称略)

■ **報告対象組織**
株式会社イトーキ、連結子会社および一部子会社
※連結子会社および一部子会社についてはP.18をご覧ください。

■ **報告対象期間**
2009年度 (2009年1~12月)
※活動については一部2010年度を含みます。

■ **発行**
2010年6月 (次回発行は2011年6月の予定です)


■ **報告対象分野**
環境保全活動、社会活動

■ **準拠あるいは参考にするガイドライン**
環境省「環境報告ガイドライン (2007)」
環境省「環境報告書の記載事項等の手引き (2007)」
環境省「環境会計ガイドライン (2005)」

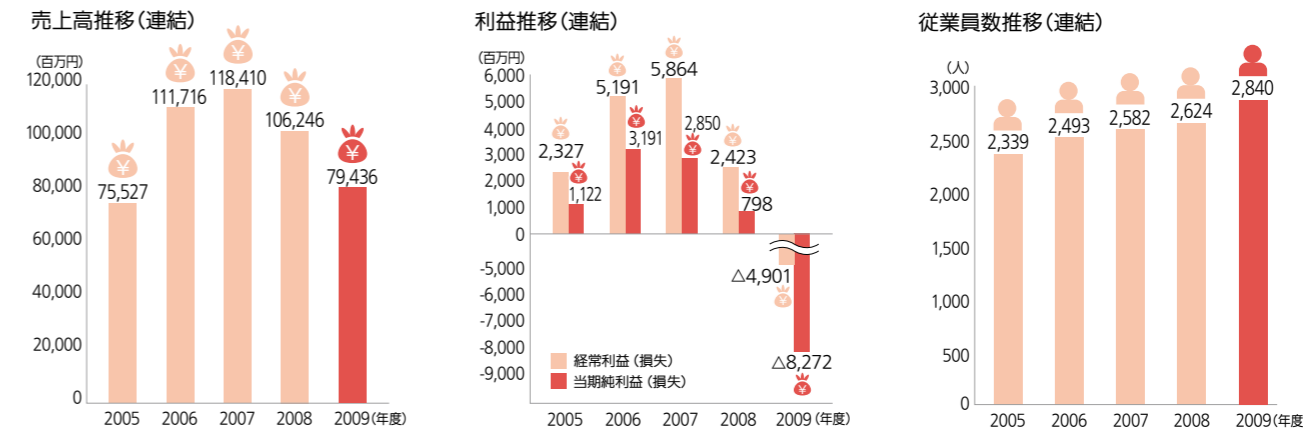
■ **作成部署、連絡先**
環境管理部 Tel : 03-3206-6201 Fax : 03-3206-6290
Mail : eco@itoki.jp

会社概要

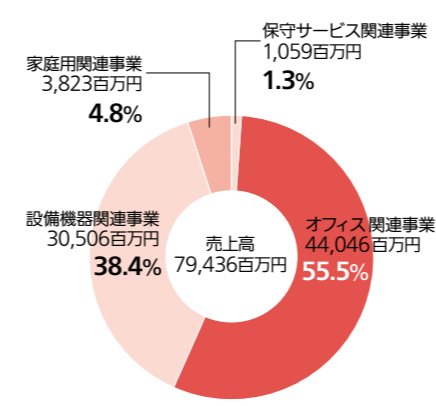
社名	株式会社イトーキ	資本金	5,277百万円
英文社名	ITOKI CORPORATION	代表	代表取締役会長 山田 匡通 代表取締役社長 松井 正
本社所在地	〒536-0002 大阪市城東区今福東 1-4-12 Tel.06-6935-2200/Fax.06-6935-2268	事業所数	事業所 44カ所、配送センター 8カ所、工場 7カ所
創業	1890 (明治23) 年12月1日	従業員数	2,147名 (単体 2009年12月31日現在)
設立	1950 (昭和25) 年4月20日		

 会社概要 <http://www.itoki.jp/company/>

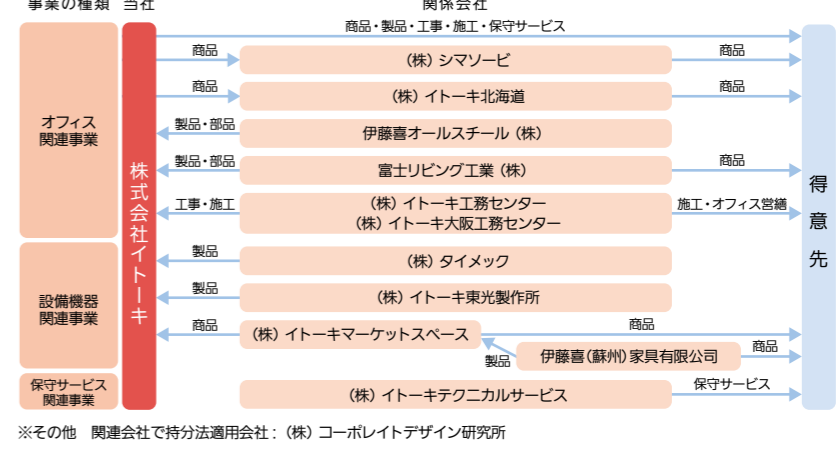
財務データ



売上高構成比 (財務セグメント別)



関係会社の状況 (連結子会社・持分法適用関連会社)



 業績・財務内容 <http://www.itoki.jp/company/ir/>

事業内容

オフィス関連事業 ● これからのオフィスに求められる感性や創造性を高めるクリエイティブな空間、人・物・情報を保護するセキュリティ&セーフティな環境を、さまざまな製品・ソリューションにより実現します。

オフィス建材関連事業 ● フリーアクセスフロアをはじめ、移動・可動間仕切など、オフィスビルや公共施設などに、施工性・機能性・デザイン性を兼ね備えた内装建材設備を提供しています。

設備機器事業 ● 工場・物流施設、研究施設、原子力施設、金庫室、商業施設などの専門施設を、先進技術を駆使した効果的なシステム機器・設備でサポートします。

公共施設事業 ● 医療・高齢者施設、学校、図書館、美術館、博物館、劇場・ホールなど、さまざまな施設に最適な空間・環境づくりを提案します。

ホーム家具関連事業 ● 学習机・学習家具、書斎・SOHO用家具、リビング・ダイニング家具、可動式収納システムなどにより、さまざまなパーソナル空間を演出します。

 事業紹介 <http://www.itoki.jp/company/>

人も活き活き、地球も生き生き—新ユーデコスタイル

新 Ud & Eco style

2010 REPORT of ITOKI

レポート・オブ・イトーキ 2010



ダイジェスト版 環境・社会報告書

株式会社イトーキ

お客様相談センター ☎ 0120-164177
<http://www.itoki.jp/>



チャレンジ
未来が変わる。
日本が変わる。

25
A0510/1010@CDIDNP